

## PP6 工芸村の環境改善

**背景・目的:** 工芸産業が発展するにつれ周辺環境に及ぼす影響は拡大し、今や工芸産業の環境問題は村内だけでなく、周辺地域との関係において検討されるべき重要課題となっている。本 PP ではハタイ省ヴァンフック絹織物村の環境改善に向けた取り組みにより、他の工芸村にも適用可能な改善策の提案、特に工芸村の環境問題に対する政府支援方法及び、工芸従事者の意識改善のための環境改善マニュアルの作成を目的として実施した。

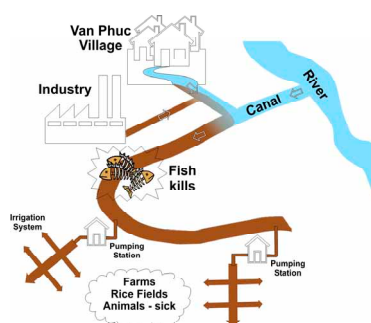
**活動内容:** はじめに、小川に流入する汚染源の調査、小川の流量測定、廃水の測定と廃水処理システムの設計等、技術的な調査を行なった。その結果、主に次のような環境影響と対応策が明らかになった。(イ)水質汚染発生源である染物従事世帯・企業に対しては物理化学的処理機材 (physico-chemical treatment facility) が汚染削減に有効、(ロ)有機物によって汚染されている河川に対しては、排水路の浚渫や生物池などの水生植物の利用、物理化学的処理機材の適用などによる改善が有効、(ハ)下水システムの整備が必要、(ニ)固形廃棄物回収システム整備が必要、(ホ)労働環境に対する意識不足と劣悪な作業環境による健康被害の影響の増大に対する対応策が必要、(ヘ)近隣の大規模工場から周辺の農地や河川にまで影響を及ぼしており、マクロレベルでの環境影響を政策レベルで対応する必要がある。特にマクロレベルでの環境問題と対応策を政策レベルで議論するために、DOI、DOSTE、ハドンタウン PC、ヴァンフック村 PC などからなるワーキンググループを設立して、月例ミーティングを開催した。

**成果:** 技術面での現地調査及び一連のワークショップを通じた議論の中で、村の環境改善には、村レベルで活動するだけでは不十分であり、地元政府による対応が不可欠であること、また技術面での改善のみならず、資金面での対応、そして社会的な理解(環境に対する意識向上)の3つが揃って初めて環境改善の第一歩となるという意識が関係者内で共有化された。

**課題と教訓:** 工芸村レベルでの環境改善にあたって具体的な成果を挙げるためには、1)関係行政機関の実施体制の明確化、2)騒音や排水問題など、労働安全基準の設定と指導による関係者の意識向上と自主改善、そして 3)品目や産業規模に応じた環境影響指標の平準化による工芸村での環境アセスメントの制度化 (ISO14000 や SA8000 など国際環境基準への登録)、が将来的には求められる。



染色工場からの廃水



マクロレベルでの環境影響



ステークホルダーワークショップ

## PP7 少数民族のマネジメントキャパシティ向上

**背景・目的:**少数民族は伝統的価値への理解の欠如や不安定かつ限られたマーケット、コスト意識の欠如、利益を中間搾取する仲介業者の存在などから、工芸製作が収入の増加や生活水準の向上に結びついていない。そのため、少数民族の工芸に係わるビジネスマネジメント能力の向上を図ることを目的として、工芸品の製作と販売に関わるマネジメントスキル習得のためのNGO指導による現地でのトレーニングを実施した。

**活動内容:**NGO が工芸品の製作、販売に関わるマネジメントスキル習得のためのトレーニングを実践し、少数民族自身が工芸振興目標を示した簡単なビジネス計画の作成を行なうことで、少数民族のビジネスマネジメント能力の強化を図った。マネジメント・デザイントレーニングは主に工芸村で行われたが、ハノイでのビジネスプランワークショップの開催や工芸品バザーへの参加、工芸品店や博物館の視察、他の少数民族工芸村へのスタディツアーの実施などにより、少数民族が都市部を訪問し、他地域の民族と交流できる機会を提供した。

**成果:**商品開発や帳簿管理の実践等を通じて一定のキャパシティの向上が認められ、自主的に商品開発に取り組むための基礎的能力を身につけることが出来た。また、地域間交流や視察により、少数民族が外部から多くの刺激を受け、工芸振興に一層強い意欲を示した。プロジェクトの実施を通じて、政府関係者、関係機関、NGO 等が協力して、少数民族支援の横断的な連携のあり方、必要な支援策や制度を提案した結果、適切なトレーナーとファシリテーターによる少数民族に対するビジネストレーニングの効果と必要性が、政府関係者にも強く認識された。

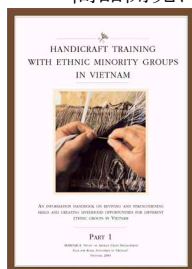
**課題と教訓:**少数民族の工芸支援方策や政府機関の役割については、少数民族支援ハンドブックにまとめられたが、今後は省政府や地元政府、女性連合らが中心となって、少数民族に対するマネジメントキャパシティ向上の必要性をさらに深く理解し、政府関係者やNGO による少数民族支援に関わる役割分担に基づき、適切な支援体制を確立することが必要である。また、少数民族の支援には文化保全、保健・医療、教育など、包括的なアプローチが求められることから、既存の少数民族支援プログラムに工芸振興の視点を加えていくことも重要である。



商品開発トレーニング



ビジネスプランの提案



少数民族工芸トレーニング支援ハンドブック



市場向け少数民族工芸品

## PP8 工芸村開発戦略

**背景・目的:** 工芸製作に従事している村の多くは農業やその他の業種と兼業しているため、村の問題を包括的に捉え、その一手段としての工芸振興を村の発展計画のなかに位置づける必要がある。また、工芸従事者の多くは各世帯で独自に工芸に従事しており、組織づくりや情報交換を出来るような機会ほとんどない。そのため、工芸村の総合的かつ持続的な発展を支援するメカニズムの構築を明らかにすることを目的として実施した。

**活動内容:** 地方政府関係者、農民、民間企業の代表者、工芸従事世帯、マスターアルティザン、工芸従事者などからなるワーキンググループを組織し、ローカルコンサルタントの指導によりPRA(参加型農村調査法)トレーニングを実施した。参加型手法によって収集された情報は、イ)コミュニティの経済状況、貧困度合等の村の状況分析、ロ)工芸生産に関わる情報(労働環境、生産工程、収入増加、雇用機会等)、ハ)工芸政策に関わる支援策、ニ)5年後の村のシナリオ、などである。村の現況分析により、経済、社会、教育、環境の側面から、村の持つ強みや弱み、問題点等が明らかにした。これらの分析結果に基づき、次の項目からなる工芸村開発戦略を作成した。すなわち (1)村の現況と課題(自然、経済、社会・文化・教育・環境、インフラ等)、(2)農村開発における目標と工芸振興の位置づけ、(3) 2010 年までの持続可能な工芸村開発戦略、(4)具体的な優先課題と取り組み方法、(5)アクションプラン、(6)支援メカニズムの提案、である。

**成果:** 参加型による村のマスタープランづくりは、村全体の問題の把握を通じて、工芸生産の問題と解決の方法を明らかにする、村レベルのプラン作成のツールとして有効である。また、政府にとっては行政サービスニーズが具体的に把握でき、村民の参加プロセスによって、具体的な計画実施に向けても村民の協力が得られやすい。村民の参加により作成された工芸村開発戦略への評価と期待は高く、ベトナム国内の他地域においても高い適用可能性を示唆している。

**課題と教訓:** 本 PP は、工芸村だけでなく農村地域の政策立案、開発を進めるための有効な政策ツールであり、全国的な普及が図られることが望ましい。今後は 1)工芸村開発戦略作成のマニュアル・ガイドラインを完成し、作成支援体制を確立すること、2)工芸村開発戦略を正規の政策形成システムに組み込み、財政面、技術面の支援メカニズムを確立すること、そして 3)工芸村/産地レベルでの組織づくりを促進し、地域共通の問題への取り組み体制を強化すると同時に、地域振興の核としてネットワークを国内外に広げていくことが重要である。



村の現状分析のための  
PRAトレーニング



村のリーダーによる  
開発戦略の提案



ハータイ村  
漆器アソシエーションの設立



## PP9 ベトナム工芸コンペティション

**背景・目的:** 工芸の振興は長期的な取り組みと、全国的な運動として継続することが必要である。この一方策として、「ベトナム人の生活の質を豊かにする工芸品」というテーマで工芸コンペティションを実施した。

**活動内容:** 現在製作している工芸品の伝統や価値、デザインや技術、使われ方等について、製作者が説明や情報を加えることにより、ベトナム人の生産者と消費者が共に工芸品の価値を共有しあい、ベトナム工芸品の情報を国内外に発信することが目的であり、全国の工芸に関わる個人や団体(工芸村の従事者、少数民族グループ、学生、デザイナー、民間企業等)を対象に、製品コンペとデザインコンペの2部門からなる。

**成果:** 応募総数 186 点(製品部門 162 点、デザイン部門 24 点)のうち、2003 年 9 月 29 日に第1次審査を実施し、製品部門 92 点、デザイン部門 8 点の計 100 点が通過した。2004 年1月のハノイでの最終セミナー開催時に最終審査会を開催し(日本人審査員6名、ベトナム人審査員5名を招聘)、最優秀作品1点を含む 20 品目が入選した(図 5.1 参照)。

**課題と教訓:** ベトナムでの工芸コンペは初の試みであり、審査方法、展示方法ともに不備な点はあったものの、全国的に参加意欲は高く、審査会では公平な評価と審査員からの適切なコメントに、応募者からの関心も高かった。応募作品は製作技術や品質は高いものの、デザイン性や生活の中での活用性という点に欠けるものが多かった。今回は第1回コンペということでテーマ及び対象品目を幅広く扱ったが、審査員からは今後テーマを限定する、又は品目毎に審査を行なう方がよいなどの提案があった。また、入賞作品に対しては見本市への出展やバイヤーとのマッチング、国内外での展示会開催などのインセンティブを与えることも必要であろう。今回は文化情報省芸術課(Dep. of Fine Art in Ministry of Culture and Information)の協力を得て、本調査の一活動として開催したが、将来的にベトナムで継続的に開催され、全国レベルでの工芸振興活動のきっかけとなることが望まれる。



第1次審査会



最終審査会



最終審査作品展示会



表彰式

図 5.1 ベトナム工芸コンペティション入選作品

<p><b>製品部門 入選 16 作品</b></p> <p>一等賞: 1 点 二等賞: 2 点 三等賞: 3 点 奨励賞: 10 点</p>	 <p>1<sup>st</sup> Prize Nguyen Trong Tan, Ha Tay "Rattan Dish"</p>	 <p>2<sup>nd</sup> Prize Pham Thi Minh Chau, Hanoi "Brothers" (ceramic)</p>	 <p>2<sup>nd</sup> Prize Dinh Thi Nu, Ninh Binh "Embroidery table cloth"</p>
<p><b>奨励賞</b></p>	 <p>3<sup>rd</sup> Prize Nguyen Hoi Bieu, Ha Tay "La Khe Silk"</p>	 <p>3<sup>rd</sup> Prize Nguyen Lien Phuong &amp; Bui The Hoang, Hanoi "Spring" (lacquerwares)</p>	 <p>3<sup>rd</sup> Prize Sam Thi Khuyen, Nghe An "Silk Scarf"</p>
<p><b>デザイン部門 入選 4 作品</b></p> <p>一等賞: 該当なし 二等賞: 該当なし 三等賞: 2 点 奨励賞: 2 点</p>	 <p>3<sup>rd</sup> Prize Ngo Thanh Long, Hanoi "Wooden Lamp"</p>	 <p>3<sup>rd</sup> Prize Ngo Thanh Van, Hanoi "City Life" (jewelry)</p>	 <p>Consolation 2 items</p>

#### 5.4 パイロットプロジェクトの成果と得られた教訓

合計9件のパイロットプロジェクトの実施は大きな成果を生み、工芸振興にあたって様々な教訓が得られたが、それらは下記に集約される。

- イ) **工芸産地への具体的なインパクト**: 中央政府の関係機関、省政府、工芸村、工芸関係団体をはじめとして様々な関係者がベトナム工芸の振興という視点から協同してパイロットプロジェクトを実施したプロセスにあり、これによって工芸振興がパートナーシップによってはじめて効果的に行いうることに共通理解が得られたとともに、産地への具体的なアクションやインパクトを与えることが出来た。
- ロ) **政府関係者の産地への理解と協力**: プロジェクトの実施過程で、政府関係者との意見交換や参加の場を数多く設けることで、彼らが産地の現状と課題を理解し、これまで提言してきた政策や方針の具体化を図ることが可能となった。裨益者である工芸村にとっても、工芸村や工芸産業の現状と問題点などの声を、政府関係者に直接あげることが出来る機会となった。
- ハ) **裨益者による積極的な参加と意識向上**: パイロットプロジェクトの目的や方法は裨益者である村民にも充分理解され、積極的な参加が見られた。工芸村においてはその実態に即した目標を定めることにより、工芸振興を戦略的手段として位置づけ、総合的なコミュニティ開発を促進することが可能である。パイロットプロジェクトは工芸振興の主要な側面について具体的な活動モデルとなった。
- ニ) **工芸振興のための人材育成と仕掛けづくり**: 本 PP は、専門知識と能力を持ったタスクフォース(省政府関係者や職業訓練学校、研究者、大学関係者、博物館、NGO など)による集中的な現地への直接指導により、活動に参加した政府関係者や農村部裨益者のキャパシティ向上を効果的に図ることが出来た。このような工芸振興に関わる多様なセクターの専門集団の指導によって、農村部での工芸振興活動の仕掛けと参加機会を提供することが重要であり、このような仕掛けと機会づくりにドナーやNGOの支援が欠かせない。
- ホ) **成果品の充実と活用**: 本 PP での活動を他地域で広めていくためには、成果品として作成された数々のマニュアルが幅広く活用され、商品や写真類が人々の目に触れ評価されることが必要である。本 PP の成果品は PP に参加した裨益者や各省政府だけでなく、関係機関に配布されるとともに、関係機関での教材として活用されることが望まれる。
- ヘ) **産地間の連携と交流活動の推進**: 他地域との人材や技術交流は裨益者(少数民族含む)へのインパクトが大きく、今後政府支援による交流活動の促進が期待される。見本市への参加や、外国人専門家の派遣などにより、ベトナム工芸品の国際的な評価を得られる機会をさらに増やすことで、交流活動や市場開拓が一層進むことが期待される。
- ト) **官民パートナーシップ**: 最終的に工芸品の市場拡大を狙うためには、民間セクターの活性化が欠かせない。本 PP の活動では主に地方政府と工芸村との協力体制の確立を主眼に置いて、地方政府が工芸村の現状と課題を直接理解する機会を提供できたが、PPの成果を活用した民間セクターとの連携や市場評価を得ることが今後の課題である。

## 6. 工芸振興マスタープラン

### 6.1 工芸振興マスタープランの目的と構成

本調査におけるマスタープラン作成の目的は、工芸品の振興を通じた農村地域の振興と貧困削減のために、実効性のある政策フレームを作成することにある(図 6.1 参照)。具体的には下記である。

①**目標達成のための政策実践メカニズムの明確化**: マスタープランは長期の目標に向けて、具体的なアクションを適切に実践する指針を与えるものである。本調査では将来の基本目標(ビジョン)、目標の具体化(開発目的)、目標を達成するための基本方針(戦略)、戦略に則ったアクション(プロジェクト・プログラム)、プロジェクト実施の方策(モダリティ)というヒエラルキカルな構成をとった。

②**政策調整とステークホルダーの役割分担の明確化**: 工芸品の振興を通じた農村地域の開発には、様々なステークホルダーが関与し様々な課題の取り組みを連携して実行する仕組みが必要であり、この取り組み方を明らかにする。

③**工芸政策の流通とマスタープランの制度化**: 中央政府の基本政策は、省、ディストリクト、コミュニティ、工芸村という、工芸振興活動の現場のアクションやプロジェクトに結びつき、上位政策との連携が明確となる必要がある。本調査では中央レベル、省/ディストリクトレベル、コミュニティ/工芸村レベルでのマスタープランの作成・検討を試み、政策や施策の連続性や連携がより保たれるように意識して調査を進め、マスタープランの提言に結びつけたが、これらを制度として確立する必要がある。

### 6.2 三層構造マスタープランシステム

工芸政策が効果的に機能するために、中央レベル、省レベル、工芸村レベルでの三層からなる工芸マスタープランシステムを提言した(図 6.2 参照)。これによって中央政府の政策や支援が省政府関係機関を通して工芸村に効果的に行われ、同時に工芸村の問題やニーズが的確に上位機関によって把握される。この中で、施策を具体的に実施する上では省レベルのマスタープランが最も重要な役割を果たすものと考えられ、省の工芸政策関係者のキャパシティ向上が成功の鍵を握っている。また工芸振興に関わる多様な関係者の協調を促すためには、中央や省レベルでの協議会(カウンシル)や工芸村・コミュニティレベルでのアソシエーション設立が望ましい。

### 6.3 省政府の役割とマスタープランの作成

工芸産業は、地域経済の発展と伝統保全に大きく貢献する主要な地場産業の一つであり、地方政府の工芸セクター振興への関心は高い。省政府は中央政府と工芸産地の橋渡し役として、さらには工芸産地への直接の指導・支援組織としての役割を果たす必要がある。具体的には下記である。

- (イ) 各地域での効果的な工芸振興に向けた、工芸セクターに関わる政策やプログラムを統括する。
- (ロ) 地域の特性にあった、中央政府の政策内容を具体化する。
- (ハ) 工芸セクターに関わる課題に関する草の根レベルからの声やニーズを集約し、産地の実情にあった、地域独自の指導や支援策を推進する。

#### 6.4 コミューン/工芸村の役割とマスタープランの作成

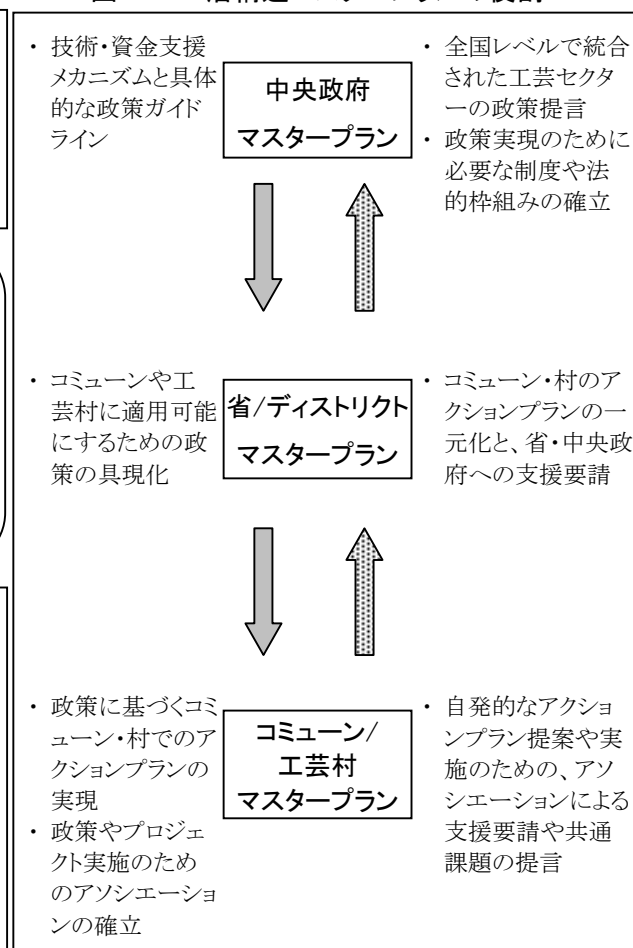
世代間で受け継がれた技術によって伝統工芸品を製作し、ベトナムの工芸セクターを支えている母体は農村部の工芸村である。工芸村の村民自らが、ベトナム工芸セクターを支えているという意識を持って、伝統的な工芸生産システムを継承しつつ、競争力を高めていくことが重要である。工芸村に如何なる支援をするのが工芸村の発展と工芸の振興に最も効果的かについて、中央政府や省関係機関は従来ほとんど情報を持たず、そのために適切な方法で包括的な対応がとられてこなかった。また工芸村における工芸活動は、工芸村の社会経済システム全体の一部であり、特定の問題をとりあげた対策は十分な効果を発揮しなかった。本調査のパイロットプロジェクト8で試みた、参加型による工芸村開発戦略策定は、この工芸村レベルでの実効性のあるマスタープランづくりが可能かどうかを確かめるものであったが、その結果は極めて満足のいくものであった。即ち適切なガイダンスと財政支援があれば、村民の参加意識は高く、又能力も充分にあることも分かった。

図 6.1 工芸振興マスタープランの全体像



出典：JICA 調査団作成

図 6.2 三層構造マスタープランの役割



出典：JICA 調査団作成



## 7. 戦略とアクションプラン

### 7.1 伝統価値保全メカニズムの確立

工芸品の価値はその地域の伝統と文化に根ざしたものでなくてはならない。伝統的価値の発掘、保全と復興を、政府関係者や関係機関、工芸村が協力して取り組むようなメカニズムを確立する。今まで充分に行われてこなかった伝統価値の発掘・記録を工芸村と研究者の両レベルで行なうこと、これを保存・展示し国民の共通の知識とすること、またこれを具現する工芸品や工芸職人の保全を行なうことが重要である。そのための5つの戦略と15つのアクションは下記である(表 7.1 参照)。

①**工芸村の伝統の記録運動**: 工芸村単位で伝統工芸品や技術、村の伝統を発見・記録し、工芸村のアイデンティティを確立する。

A11: 発掘・記録のガイドライン作成

A12: 工芸村の伝統の保全と記録

A13: 伝統工芸品の記録成果の発表(省、中央)

②**ローカルミュージアムの整備**: 地域の博物館を地域の伝統価値保全や工芸品情報の拠点として活性化し、地域の工芸知識ベースを確立する。観光客や地域の人々にとって分かりやすく親しみやすい展示内容にする。

A21: ローカルミュージアムの実態調査

A22: 既存ミュージアムでの工芸品の展示整備

A23: ローカルミュージアムのネットワーク整備

③**伝統工芸研究の推進**: 伝統工芸品の学術研究を推進するための基盤となる組織づくりと、国内外での連携を図る。これによってベトナム工芸品の伝統価値を深く理解すると同時に世界に向けて発信する。

A31: 伝統工芸学会の設立

A32: 研究機関のネットワーク化

A33: 研究テーマのリストアップ

④**マスターアルティザン制度の充実**: 伝統技術を持ったマスターアルティザンを社会的に認知し、その技術や知識を広められるような制度や活動を推進する。

A41: マスターアルティザン制度の活性化

A42: マスターアルティザンの作品の収集・展示

A43: マスターアルティザンの交流

⑤**伝統工芸品の指定**: 伝統的・文化的な財産として保全の必要性が高い工芸品を発掘し、ベトナムのアイデンティティとしてその保全と振興を図る。

A51: 伝統工芸品の指定制度の策定

A52: 指定工芸品の収集・保存

A53: 伝統工芸品の広報活動

**実施体制**: 本目的の達成のためには、中央政府が指定制度の確立や、ガイドライン作成等の伝統工芸保全のための支援策を充実させ、MOCI を中心とする関係者、NGO や民間企業のイニシアティブと、博物館や研究機関の協力、村民の参加により、各地域で発掘・調査活動の活性化を図ることが重要である(表 7.2 参照)。

表 7.1 「伝統価値保全メカニズムの確立」戦略とアクションプラン

戦略	アクションプラン	取り組み内容
A1 工芸村の伝統の記録運動	A11 発掘・記録のガイドライン作成	工芸村での伝統価値の発掘と記録の手法と実践方法、実施体制等について、調査関係者・工芸村向けマニュアルを作成する。
	A12 工芸村の伝統の保全と記録	工芸村の伝統価値発掘に村民が主体的に参加し、専門家が技術的支援を行ないながら、その保全と記録に取り組む。
	A13 伝統工芸品の記録成果の発表(省、中央)	伝統工芸品をその地域の文化財として保全と振興を進めるために、定期的に中央や省の中心部で発表の場を設ける。
A2 ローカルミュージアムの整備	A21 ローカルミュージアムの実態調査	各地域に点在する博物館の組織概要、活動状況、展示内容を全国調査し、整備や改善の必要性について分析する。
	A22 既存ミュージアムでの工芸品の展示整備	既存博物館で工芸品展示を推進するために、展示方法を工夫しながら博物館展示の充実を図る。
	A23 ローカルミュージアムのネットワーク整備	全国の博物館の情報が一同に把握でき、またその情報交流や共同調査などを促進するためのネットワークを確立する。
A3 伝統工芸研究の推進	A31 伝統工芸学会の設立	ベトナム伝統工芸品の研究母体となる学会を設立し、活動内容や組織体制を確立するとともに、調査研究活動が容易に行なえるような社会基盤や政策を整える。
	A32 研究機関のネットワーク化	文化、技術、産業など幅広い視点から国内外の研究機関をリストアップし、ベトナム工芸品の情報を広めながら、研究機関や研究者とのネットワークを確立する。
	A33 研究テーマのリストアップ	学術研究としてのテーマをリストアップし、国内外の研究機関や研究者に対して情報提供する。
A4 マスターアルティザン制度の充実	A41 マスターアルティザン制度の活性化	制度の見直し及び、具体的な支援(技術移転、優遇制度、保護策等)を推進するとともに、活性化のための事業を進める。
	A42 マスターアルティザンの作品の収集・展示	技術は高いものの市場での販売が難しいマスターアルティザンの作品を、地域の財産として収集・展示することで、製作活動を支援する。
	A43 マスターアルティザンの交流	伝統技術の重要性と伝統工芸品の価値について社会的理解を深めるよう、マスターアルティザンが地域内外で人々と交流し、その技術や作品に触れる場を提供する。
A5 伝統工芸品の指定	A51 伝統工芸品指定制度の策定	国レベルでは主に伝統的価値の視点から、地方レベルではさらに地場産業振興の視点を含めた、伝統工芸品指定制度とその保全政策を確立する。
	A52 指定工芸品の収集・保存	指定された工芸品を収集し、保存するための活動を全国で展開するとともに、その保存技術を向上させるための取り組みを進める。
	A53 伝統工芸品の広報活動	伝統工芸品の情報を国内外に広めるため、政府や関係機関が一同となって広報活動に取り組む。

表 7.2 「伝統価値保全メカニズムの確立」に関わる関係省庁の役割分担<sup>1)</sup>

戦略	中央政府		VCA	女性連合	博物館	金融機関	教育・研究機関	ビジネス支援団体	民間企業	NGO
	主要	支援								
A1 工芸村の伝統の記録運動	MOCI	NCSSH	B	-	A	-	A	-	-	A
A2 ローカルミュージアムの整備	MOCI	-	-	-	A	-	A	-	-	B
A3 伝統工芸研究の推進	MOCI	NCSSH	-	-	A	-	A	-	B	-
A4 マスターアルティザン制度の充実	MOCI	MOLISA	A	-	-	-	A	-	-	-
A5 伝統工芸品の指定	MOCI	NCSSH	-	-	A	-	A	-	-	-

1) A: 主要な役割、B: 補助的役割

## 7.2 工芸品開発システムの改善

工芸品が市場で売れるようになるためには、技術改良や品質向上といった技術的な側面のみならず、工芸品に関わる人材の専門的スキルの向上、開発された商品の保護や市場開拓が必要であり、このような工芸品開発の取り組みをシステムとして改善する。そのための5つの戦略と15つのアクションは下記である(表 7.3 参照)。

**①デザイン教育の充実:** デザインに対する共通認識を深め、デザインや商品開発に携わる人材を育成する。

*B11: 既存教育機関でのカリキュラムの作成*

*B12: デザインセンター組織の設立*

*B13: 国内外デザインネットワークの拡充と交流*

**②工芸品コーディネーターの育成:** デザイナーと職人の間をつなぎ、伝統価値と市場ニーズに対応した商品開発のプロセスをコーディネートする専門的な人材を育成する。

*B21: コーディネーター育成システムの構築*

*B22: コーディネーターの資格制度の創設*

*B23: コーディネーターの産地・市場派遣*

**③工芸スキルの向上:** ベトナム工芸品の強みである、伝統的に受け継がれてきた高度な手工芸技術を守り、更に改善し広めていく。

*B31: 工芸スキルの特定*

*B32: 工芸スキルのコンペティションの開催*

*B33: 工芸スキル訓練システムの構築と普及*

**④オリジナルデザイン・技術の保護システム:** 伝統的モチーフ、新技術や設備などを、国内外市場で安易に真似されないよう、その指定や基準の設定を進め、対外的に普及していく。

*B41: 著作権登録システムの構築*

*B42: 国際基準への登録*

*B43: 優良工芸品認定マークの発行*

**⑤市場での評価機会の提供:** ベトナム工芸品の良さを国内外に広め、市場での評価を受けながら工芸品開発と市場開拓を進められる機会を提供する。

*B51: 国内外の品評会・展示会への参加支援*

*B52: 専門家の派遣・人材交流*

*B53: バイヤーとのマッチングシステムの整備*

**実施体制:** 本目的の達成のためには、民間セクターが中心となって、市場に対応した商品開発と、産地と市場をつなぐための人材育成を進める必要がある。中央政府はこのような民間セクターの取り組みに対して法制度や資金支援を行ない、省政府は地域を支える民間企業に対して、市場アクセス機会を提供し、技術・資金面から支援する。しかし民間セクターが充分な関心を示さない僻地の工芸村や工芸品については、政府や NGO の支援が必要である(表 7.4 参照)。

表 7.3 「工芸品開発システムの改善」戦略とアクションプラン

戦 略	アクションプラン	取り組み内容
B1 デザイン教育の充実	B11 既存教育機関でのデザインカリキュラムの作成	大学や職業訓練学校などの教育機関において、デザインの意義とノウハウを学び、生産現場や企業で商品開発のプロセスを学べるような、実践的なデザイン教育プログラムとカリキュラムを作成する。
	B12 デザイン振興のための組織設立	政府内でのデザイン担当部署、デザイン審議会、民間によるデザインセンターの設立など、行政、産業界、生産現場で必要な組織体制や活動内容等について具体的な検討を行なう。
	B13 国内外デザイン組織ネットワークの拡充と交流	教育機関、行政機関、産業界など、デザインに関わる国内関連機関のネットワーク化を図り、海外のデザイン振興機関との情報交換や人材・技術交流活動を推進する。
B2 工芸品コーディネーターの育成	B21 コーディネーター育成システムの構築	教育機関と産業界の連携のもと、市場情報収集、商品企画、コンセプト立案、マーケティング・デザイン・製作技術の知識と調整能力に長けた人材をコーディネーター育成システムとして構築する。
	B22 コーディネーターの資格制度の創設	産業振興の視点から、デザイン、生産、販売に関するスキル、契約条項や知的財産権、経営管理、トラブル処理等の知識を選定基準として、コーディネーターの資格制度を創設し、人材登録する。
	B23 コーディネーターの産地・市場派遣	産地振興や市場開拓の中心的存在となるコーディネーターを産地や市場に派遣し、彼らを中心とした商品開発事業を展開する。
B3 工芸スキルの向上	B31 工芸スキルの特定	工芸品製作の分業体制のなかで、高度な技術を要する工程に特化し、そのスキルを工芸品目ごとに特定する。
	B32 工芸スキルのコンペティションの開催	伝統的で高度な手工芸技術を保全し、世間一般に広めるために、職人が一堂に会しその技術を競う、スキルコンペティションなどのイベントを開催する。
	B33 工芸スキル訓練システムの構築と普及	ベトナム工芸品に必要なスキルを後継者に伝承していくために、職業訓練学校や工房、企業などでの訓練システムを構築し、指導者や見習い技術者への支援とその訓練制度の普及を図る。
B4 オリジナルデザイン・技術の保護システム	B41 知的財産権 <sup>1)</sup> 保護システムの構築	人間の知的な創作活動によって生産された工芸品に対して、著作権や工業所有権などの知的財産権保護システムを構築する。
	B42 知的財産権国際基準への登録	知的所有権に関する国際基準について登録を行なえるようなシステムを構築する。
	B43 優良工芸品認定マークの発行	一定の品質基準を持ち、オリジナル商品としての価値を認められる工芸品に対してその認定を行ない、商標登録して販売できるようなシステムを構築する。
B5 市場での評価機会の提供	B51 国内外の品評会・展示会への参加支援	企業だけでなく工芸村や生産者グループ単位でも参加できるような品評会や展示会を開催し、その情報提供と参加支援を行なう。
	B52 専門家の派遣・人材交流	国内外からデザイン、技術、マーケット等の専門家を招聘し、産地や市場に派遣できるような受け入れ体制を整える。
	B53 バイヤーとのマッチングシステムの整備	産地とバイヤーがマッチングできるよう、産地情報とバイヤー情報を蓄積し、マッチングの機会を定期的に提供する。

1)「知的財産権」とは、工夫や発見、営業上の信用など人間の知的な活動から生ずる価値ある財産を守る権利のこと。著作権、意匠権、商標などを含む。

表 7.4 「工芸品開発システムの改善」に関わる関係省庁の役割分担<sup>1)</sup>

戦略	中央政府		VCA	女性連合	博物館	金融機関	教育・研究機関	ビジネス支援団体	民間企業	NGO
	主要	支援								
B1 デザイン教育の充実	MOET	MOI	A	-	-	-	A	-	B	-
B2 工芸品コーディネーターの育成	MOI	MOT, MOET	A	-	-	-	A	A	A	B
B3 工芸スキルの向上	MOLISA	MOET	B	B	-	-	B	-	B	B
B4 オリジナルデザイン・技術の保護システム	MOST	MOI, MOT	-	-	-	-	B	A	A	-
B5 市場での評価機会の提供	MOT	MOI	A	-	-	-	-	A	A	B

1) A:主要な役割、B:補助的役割



### 7.3 持続可能な生産システムの確立

競争力のある工芸品開発を進めるために、工芸品生産に関わる様々な課題(原材料の供給、技術や品質改善、経営能力の向上、労働環境の改善等)を一連のシステムとして捉え、持続可能な生産が可能となるようなメカニズムを確立する。そのための5つの戦略と15つのアクションは下記である(表 7.5 参照)。

**①原材料保全・利用管理システムの確立:** 枯渇しつつある原材料を保全し育成していくためにその実態を把握し、計画的な利用とその品質向上を図る。

*C11: 原材料の実態調査*

*C12: 原材料保全システムの確立*

*C13: 原材料の品質改善*

**②産地振興:** 工芸品生産が集積している地域を産地として、技術・人材交流などの地域間連携を強化し、BDS プロバイダーを通じた産業の育成、地域の特性を活かした産地ブランドを確立する。

*C21: 産地間リンケージの強化*

*C22: BDS プロバイダーの育成*

*C23: 産地ブランドの確立*

**③技術改良・品質管理システムの確立:** 手工芸技術の向上、生産性向上のための設備投資、品質管理など、一連の生産工程の質を向上させ、それに携わる、優れた人材を育成する。

*C31: 品質管理基準の確立*

*C32: 技術改良とそのための設備投資支援*

*C33: 職業訓練学校の充実*

**④経営者の育成:** 組織としての経営能力の改善と経営・管理体制を構築するとともに、新たな起業家や優れた零細企業が誕生するよう支援を行なう。

*C41: 経営管理マニュアルの作成*

*C42: 起業家支援制度*

*C43: 工芸中小・零細企業支援制度の確立*

**⑤生産現場の労働環境改善:** 劣悪な労働環境に対する生産者や経営者の意識を向上させ、改善への取り組みを進められるよう支援するとともに、一定の労働基準のもと、消費者が安心して購入できる工芸品の生産体制を整える。

*C51: 労働安全基準の設定*

*C52: 労働安全指導支援システムの確立*

*C53: 国際環境基準への登録*

**実施体制:** 本目的の達成のためには、外部からの技術支援(経営指導や設備改善等)により競争力を高めた企業や関係機関の連携により、産地クラスターの形成を促すこと、そして政府は、産地が持続可能な生産を続けられるような環境管理・保全対策や、産地間の人材交流など、長期的な視点に立った政策支援や資金支援を行なうことが重要である。官民パートナーシップのあり方が重要なポイントになる(表 7.6 参照)。

表 7.5 「持続可能な生産システムの確立」戦略とアクションプラン

戦 略	アクションプラン	取り組み内容
C1 原材料保全・利用管理システムの確立	C11 原材料の実態調査	原材料の生育・供給地域及びその生産量と採取量、また輸入原材料の輸入先及び輸入量について実態を調査する。
	C12 原材料保全システムの確立	需要と供給のバランスに考慮し、持続可能な採取・生育計画を策定する。
	C13 原材料の品質改善	工芸品の品質向上を図るため、原材料の品質改善に向けた調査研究や技術開発を進める。
C2 産地振興	C21 産地間リンケージの強化	原材料の枯渇や技術不足など、一地域が抱えている課題を他の産地の協力によって補えるよう、産地間連携を強化するための事業や人材交流を図る。
	C22 BDS プロバイダーの育成	生産者のニーズを把握し、工芸村の生産者や零細企業にアクセス可能な BDS プロバイダー (NGO、大学、SME 育成機関等) を育成する。
	C23 産地ブランドの確立	産地間連携や BDS プロバイダーの支援によって、産地の特性を把握し、強化していくことによって、工芸品や工芸村を産地ブランドとして確立し、知名度を広めていく。
C3 技術改良・品質管理システムの確立	C31 品質管理基準の確立	競争力を高めるには品質の平準化を図ることが必要であり、そのための産地内または工芸品共通の品質管理基準を確立する。
	C32 技術改良とそのための設備投資支援	手工芸品製作に必要な技術改良や新技術導入と、古い設備の改善を図るための投資に対して優先的に支援を行なう。
	C33 職業訓練学校の充実	全国の職業訓練学校において工芸製作カリキュラムを充実し、優れた技術者が指導にあたるような優遇策や、見習い技術者が継続的に訓練に従事できるような教育システムを確立する。
C4 経営者の育成	C41 経営管理マニュアルの作成	経営改善のための評価指標、アクションプランメニュー、チェックリストなどを分かりやすく盛り込んだ共通フォーマットをマニュアルとして作成し、工芸関連の中小・零細企業に普及させる。
	C42 起業家支援制度	新商品開発や異業種交流など、新しい試みを行なう事業者や生産者に対して優先的に支援を行なう。
	C43 工芸中小・零細企業支援制度の確立	工芸セクターの大多数を占める中小・零細企業に対して、融資制度や研修制度などの支援を行なう。
C5 生産現場の労働環境改善	C51 労働安全基準の設定	作業環境の改善について経営者や生産者が自ら管理できるような簡易な労働安全基準を設定し、工芸村や企業に普及させる。
	C52 労働安全指導支援システムの確立	定期的に安全管理を行ない、必要に応じて外部からその指導を行なえるようなシステムを確立する。
	C53 国際環境基準への登録	ベトナム工芸品に対して国際的な信用を得られるよう、ISO14000 (環境管理規格) や SA8000 (労働者権利保護規範) など、労働や環境に関する国際基準の獲得を目指す。

表 7.6 「持続可能な生産システムの確立」に関わる関係省庁の役割分担 <sup>1)</sup>

戦略	中央政府		VCA	女性連合	博物館	金融機関	教育・研究機関	ビジネス支援団体	民間企業	NGO
	主要	支援								
C1 原材料保全・利用管理システムの確立	MARD	MOST, MONE, MOI	B	-	-	-	A	-	-	B
C2 産地振興	MOI	MARD, VNAT	-	B	-	A	-	A	A	B
C3 技術改良・品質管理システムの確立	MOI	MOST, MOT, MARD	-	-	-	B	A	-	B	-
C4 経営者の育成	MOI	-	-	B	-	B	-	A	A	-
C5 生産現場の労働環境改善	MOI	MOLISA, MOST	-	-	-	-	A	-	A	-

1) A: 主要な役割、B: 補助的役割

## 7.4 少数民族支援体制の確立

少数民族が工芸品の伝統的価値を理解し、国内外にその価値を広めていくとともに、工芸振興を通じて少数民族のキャパシティ向上と自立支援を進めるために、政府関係者や様々な支援機関が一体となって支援体制を確立する。そのための5つの戦略と15つのアクションは下記である(表 7.7 参照)。

①**工芸振興教育・啓蒙活動**:少数民族の装飾品や生活用品に潜在している伝統的価値を自らが理解し、工芸振興に対する意識を向上できるよう、その教育や啓蒙をしていく。

*D11: 工芸教育方法・教材作成方法の確立*

*D12: 村内トレーナーの育成*

*D13: 遠隔地教育方法の整備*

②**伝統技術・工芸品の保全・保存**:衰退しつつある伝統技術や工芸品をベトナムの文化的財産として保全し、その復興や保存の活動を推進する。

*D21: 伝統価値の調査・特定・記録*

*D22: 伝統技術の復興*

*D23: 伝統工芸品の保全*

③**技術・経営指導プログラムの策定と普及**:少数民族が工芸品開発によって収入向上を図れるよう、技術や経営マネジメントについて指導できるようなメカニズムを構築する。

*D31: 製作・生産技術の指導*

*D32: マネジメント・管理運営マニュアルの作成と指導*

*D33: 域外研修*

④**フェアトレードシステムの拡充**:少数民族が直接市場にアクセスし、公正取引を行なうことの出来るフェアトレードシステムが浸透するような社会環境整備を進める。

*D41: 国際フェアトレードシステムへの参加メカニズムの確立*

*D42: アンテナショップの開設*

*D43: エンドユーザーによるフィードバックシステム*

⑤**少数民族支援組織の支援**:少数民族支援組織同士の連携と協力体制を深め、中央政府による理解と協力を得ながら、地元政府とともに効率的かつ円滑な支援が行なえるような支援体制を確立する。

*D51: 少数民族支援組織の拡充と政府との連携強化*

*D52: 少数民族支援モデルの作成*

*D53: 少数民族支援組織によるフォーラムの組織*

**実施体制**:本目的の達成のためには、少数民族が自らの意志で伝統保全と工芸品開発に取り組めるよう、生活文化や教育・医療などを含めた包括的な視点から少数民族支援を図ることが重要である。少数民族の参加・交流機会の提供や、NGO や女性連合による現地支援活動に対する中央・地元政府の理解と協力も欠かせない(表 7.8 参照)。

表 7.7 「少数民族支援体制の確立」戦略とアクションプラン

戦 略	アクションプラン	取り組み内容
D1 工芸振興教育・啓蒙活動	D11 工芸教育方法・教材作成方法の確立	少数民族の能力にあった工芸教育や、理解しやすい教材の作成方法について調査研究を進める。
	D12 村内トレーナーの育成	優れた技術と一定の教育水準を持った人材を村内トレーナーとして育成し、彼らを中心にその技術指導を村内に広める。
	D13 遠隔地教育方法の整備	技術訓練のための視聴覚教育など、交通不便地域でも一定の教育が受けられるような教育システムを整備する。
D2 伝統技術・工芸品の保全・保存	D21 伝統価値の調査・特定・記録	少数民族村に存在する伝統工芸品やその技術、モチーフなどを調査、特定し、記録する。
	D22 伝統技術の復興	衰退しつつある伝統的な技術を保全するため、伝統的な原材料や道具を保全し、その復興作業を支援する。
	D23 伝統工芸品の保全	ローカルミュージアムや地元政府などの協力のもと、少数民族の伝統工芸品の保全活動を地域で推進する。
D3 技術・経営指導プログラムの策定と普及	D31 製作・生産技術の指導	村内トレーナーの活用、NGO 支援などにより、工芸品製作・生産技術の指導を実施する。
	D32 マネジメント・管理運営マニュアルの作成と指導	少数民族のマネジメントキャパシティ向上を図るため、マネジメントや管理運営（経理、コスト意識、交渉能力等）に関するマニュアルを作成し、その指導を実践する。
	D33 域外研修	工芸品販売を実践し、市場の存在とその現状を理解するために、域外（地元市場、都市部、他国等）での研修の実施を支援する。
D4 フェアトレードシステムの拡充	D41 国際フェアトレードシステムへの参加メカニズムの確立	労働環境や品質基準の確保、市場ニーズにあった商品開発など、国際フェアトレードのシステムにあった少数民族工芸品の生産者団体を地域で確立し、参加できるような支援体制を確立する。
	D42 アンテナショップの開設	工芸品が村内だけでなく、都市部や観光地で人々の目に触れ、（自らの手で）販売が行なえるようアンテナショップを開設する。
	D43 エンドユーザーによるフィードバックシステム	工芸品が消費者（国内外）の評価を受け、その声を活かしてさらなる改善や新たな商品開発に取り組めるよう、エンドユーザーの評価が少数民族にフィードバックできるシステムを構築する。
D5 少数民族支援組織の支援	D51 少数民族支援組織の拡充と政府との連携強化	少数民族支援の中心的役割を担う国際 NGO が効率的に活動でき、ローカル NGO の育成や地元政府との連携が一層進むような支援メカニズムを構築する。
	D52 少数民族支援モデルの作成	少数民族支援活動の事例を集め、その経験や教訓を活かした具体的な支援モデルを作成し、今後の支援活動に活用する。
	D53 少数民族支援組織によるフォーラムの組織	国内外の少数民族支援組織が集まり、その意義や問題点等について議論する機会としてフォーラムを開催し、海外での類似の活動について積極的に参加できるような環境を整える。

表 7.8 「少数民族支援体制の確立」に関わる関係省庁の役割分担<sup>1)</sup>

戦略	中央政府		VCA	女性連合	博物館	金融機関	教育・研究機関	ビジネス支援団体	民間企業	NGO
	主要	支援								
D1 工芸振興教育・啓蒙活動	MOET	MOCI, MOI	B	A	B	-	B	-	-	A
D2 伝統技術・工芸品の保全・保存	MOI	MOCI, MOET	-	A	A	-	A	-	-	A
D3 技術・経営指導プログラムの策定と普及	MOET	MOI	B	A	-	B	-	B	-	A
D4 フェアトレードシステムの拡充	MARD	MoTrade	-	A	-	-	-	-	B	A
D5 少数民族支援組織の支援	CEM	NCSSH	B	A	B	B	A	B	B	A

1) A: 主要な役割、B: 補助的役割



## 7.5 工芸村/コミュニンのキャパシティの向上

工芸村や工芸に関わる人々が抱える農村部の様々な課題を包括的に捉え、自分たちで考えることによって、工芸村の自立が可能となる。工芸振興が農村部の生活向上と貧困削減につながるように、工芸村やコミュニンのキャパシティの向上を図る。そのための5つの戦略と15つのアクションは下記である(表 7.9 参照)。

**①参加型 VDS(工芸村開発戦略)の策定:** 工芸村の将来計画を、村の実態を最も把握している村民の参加と意志のもと、村の現況と課題を分析した上で作成する。

*E11: VDS マニュアル・ガイドラインの作成*

*E12: VDS 実施体制の確立と作成支援*

*E13: VDS の制度化*

**②工芸振興組織・団体の設立:** 零細企業や家内工業などが組織化することにより、共通の問題点に取り組み、共同で工芸振興活動を行なうことによって、地域全体のキャパシティを向上する。

*E21: 工芸アソシエーションの設立支援*

*E22: 既存コーポラティブによる工芸活動支援*

*E23: 工芸関連組織のネットワーク化(産地間交流)*

**③工芸活動の財源確保:** 規模が小さいために十分な資金を持たず、借入れが困難な工芸関係者に対し、工芸活動に関わる資金を支援する。

*E31: クラフトファンドの創設*

*E32: 既存制度金融へのアクセス方法の確立*

*E33: ODA へのアクセス方法の検討*

**④工芸村の環境改善:** 工芸村の地域環境を改善し、持続可能な工芸生産が可能になるよう、地域社会による環境改善への取り組みを推進し、それを支援していく。

*E41: 工芸村の環境の現状調査*

*E42: 工芸村の環境アセスメント制度の整備*

*E43: 環境改善活動の支援*

**⑤村の工芸品のマーケティングシステム整備:** 工芸品を地域の特産品として市場で販売するために、村の特徴や地場資源を活かした、付加価値のある商品開発やマーケット戦略を作成する。

*E51: 産地工芸品”取説”と商標の作成と認定*

*E52: 観光ルート／観光客受け入れ態勢の整備*

*E53: 地場の材料と技術を活かした商品開発*

**実施体制:** 本目的の達成のためには、工芸村が自らの課題と対応策を検討し、マスタープランを作成した上で、地域の実情にあった外部支援を受けられるメカニズムが必要である。政府が中心となって適切な支援スキームを実行し、工芸村はアソシエーションの設立など受け入れ態勢を整えて支援効果を高めることが重要である(表 7.10 参照)。

表 7.9 「工芸村/コミュニティのキャパシティの向上」戦略とアクションプラン

戦 略	アクションプラン	取り組み内容
E1 参加型 VDS <sup>1)</sup> (工芸村開発戦略)の策定	E11 VDS マニュアル・ガイドラインの作成	参加型調査のプロセス(PRA 等)により、村民が村の状況を分析し、将来の姿を描いたVDSを作成できるよう、村民及び外部支援者・組織のためのマニュアル・ガイドラインを作成する。
	E12 VDS 実施体制の確立と作成支援	VDS 作成のプロセスを支援するための政府やドナー・NGO による資金・技術支援体制を確立し、作成に関わる活動を支援する。
	E13 VDS の制度化	VDS による提案を政府や関係機関が受理し、その内容によって支援計画を審査し、具体的支援を行なえるようなメカニズムを制度として確立する。
E2 工芸振興組織・団体の設立	E21 工芸アソシエーションの設立支援	工芸村内や同じ工芸品目に従事する人々によって自由に組織され、共通の目標に立ち、共同活動によって利益を平等に得られる仕組みとしての工芸アソシエーションの設立を支援する。
	E22 コーポラティブの工芸振興活動支援	既存のコーポラティブの組織力とネットワークを活用し、工芸振興に関わる活動を支援する。
	E23 工芸振興組織・団体のネットワーク化(産地間交流)	地域で工芸振興に関わる組織や団体をリストアップし、その活動の情報交換や技術交流など、産地間交流を図るためのネットワークを確立する。
E3 工芸活動の財源確保	E31 クラフトファンドの創設	工芸村又は工芸活動のための資金源として、工芸従事者にアクセスしやすい条件を備えたクラフトファンドを創設する。
	E32 既存制度金融へのアクセス方法の確立	農業農村開発銀行や貧困銀行など、既存の制度金融システムの見直しを図り、その適切なアクセス方法を確立する。
	E33 ODA へのアクセス方法の検討	ドナーからの支援が、工芸村レベルでの活動に直接届くよう、中央政府との連携を強化し、そのアクセス方法について検討する。
E4 工芸村の環境改善	E41 工芸村の環境の現状調査	工芸村の規模や生産方法、工芸品目によって異なる環境影響について、その実態を広く把握するための現状調査を実施する。
	E42 工芸村の環境アセスメント制度の整備	工芸村で実施できる環境影響評価の評価基準を設定し、定期的なアセスメントが行なえるような制度を確立する。
	E43 環境改善活動の支援	工芸村が自分たちで取り組む環境改善活動について資金や技術的な支援を行なう。
E5 村の工芸品のマーケティングシステム整備	E51 産地工芸品”取説” <sup>2)</sup> と商標作成と認定	工芸品にまつわる様々な情報を盛り込んだタグや商標を作成し、地場産品としての工芸品を産地で認定する。
	E52 観光ルート／観光客受け入れ態勢の整備	工芸村に観光客を誘致し、その環境や製作風景を楽しみながら理解してもらえよう、村の美化や案内の充実、施設の改善、観光ルートの設定等により、工芸村の観光誘致活動に地域で取り組む。
	E53 地場の材料と技術を活かした商品開発	その地域に伝わる伝統的な材料や技術を活かして、地場の特徴が伝わるような、工芸村のアイデンティティとオリジナリティを持った商品開発を進める。

1) VDS は Village Development Strategy の略。政府や外部機関でなく、工芸村の人々によって計画される将来計画のこと。

2) 工芸品の”取説”とは、材料や品質だけでなく、工芸品の歴史や産地特性、職人からのメッセージなどの情報を盛り込んだ札(タグ)のこと。工芸品を「もの」としてだけでなく「情報」による付加価値を加えて販売するための方法である。

表 7.10 「工芸村/コミュニティのキャパシティの向上」に関わる関係省庁の役割分担<sup>1)</sup>

戦略	中央政府		VCA	女性連合	博物館	金融機関	教育・研究機関	ビジネス支援団体	民間企業	NGO
	主要	支援								
E1 参加型 VDS の策定	MARD	-	B	A	-	-	-	-	-	A
E2 工芸振興組織・団体の設立	MOI	MARD	A	B	-	-	-	A	A	B
E3 工芸活動の財源確保	MPI	MARD, MOI	B	-	-	A	-	A	B	-
E4 工芸村の環境改善	MONE	MOST	-	-	-	-	A	-	A	B
E5 村の工芸品のマーケティングシステム整備	MOI	MOT	B	B	-	B	-	B	B	A

1) A: 主要な役割、B: 補助的役割

## 7.6 支援インフラの整備

実際に工芸生産に携わっている生産者や企業、工芸村に支援が行き届くための、具体的な工芸振興の指針となる法制度を策定する。それらの法制度を生産現場で具体的な振興・支援活動に結びつけるために、情報サービスの提供、金融支援、インフラ整備、人材育成などにより、生産能力と市場競争力強化のための基盤整備を図る。そのための5つの戦略と15つのアクションは下記である(表 7.11 参照)。

**①工芸振興に関わる法制度の確立:** 中央政府、省政府、地元政府が連携し、生産現場での具体的な支援活動や改善につながる法制度や横断的組織を確立する。

*F11: 中央レベル工芸振興カウンシルの設立*

*F12: 省レベル工芸振興カウンシルの設立*

*F13: 工芸セクター関連制度の合理化*

**②情報サービス支援:** 工芸ウェブサイトの充実や、国内外の工芸関連情報にアクセスできる場の提供などにより、ベトナム工芸の情報を国内外に発信すると共に、工芸関係者が必要な情報にアクセスできるようなサービスを提供する。

*F21: 工芸ウェブサイトの更新*

*F22: ワンストップ工芸センターの設立*

*F23: 僻地への遠隔情報サービス*

**③金融支援:** 工芸振興に関わる資金不足を解消するために、政府レベルでの工芸振興予算を確保するとともに、中小企業や工芸生産者が工芸活動に従事できるような金融支援策を確立する。

*F31: 工芸セクターへの政府予算配分*

*F32: 既存融資制度へのアクセス改善*

*F33: ODA の有効利用*

**④社会基盤整備:** 市場アクセスに必要な交通インフラ、生産活動に必要な生産施設や通信施設など、工芸村に対して目的にあったハードインフラを整備する。

*F41: 市場への交通アクセスの整備*

*F42: 工芸村の生活インフラ改善支援*

*F43: 工芸振興のための共同生産施設整備*

**⑤人材育成:** 工芸振興に関する政策立案者や、工芸に関わる優れた人材の育成による海外との交流など、ベトナム工芸セクターを支える人材を育成する。

*F51: 政府機関内工芸セクター担当の人材育成*

*F52: 工芸セクターに関わる人材・組織データベースの確立*

*F53: 海外交流プログラムの確立*

**実施体制:** 本目的の達成のためには、セクター横断的かつクロスカッティング 이슈を多く抱える工芸セクターに対して、官民の幅広いステークホルダーの協力のもとに、必要な制度改革や組織間の連携強化を図ることが不可欠である。特に社会インフラ整備に対して政府の果たすべき役割は大きく、適切な役割分担のもとに整備を進めることが重要である(表 7.12 参照)。

表 7.11 「支援インフラの整備」戦略とアクションプラン

戦 略	アクションプラン	取り組み内容
F1 工芸振興に関わる法制度の確立	F11 中央レベル工芸振興カウンスルの設立	MOI、MARD、MOCI、MoTrade とその他官民の関連団体の代表から構成される工芸振興カウンスルを中央レベルで設立する。
	F12 省レベル工芸振興カウンスルの設立	工芸セクターの政策及び計画の形成とモニタリング、必要な調整を行うための省政府の工芸振興カウンスルを設立する。
	F13 工芸セクター関連制度の合理化	効果的な工芸セクター開発には制度的な取り組みが必要であり、既存の制度、政府の法令や決議の合理化を進めるとともに、新たな制度的枠組みを確立する。
F2 情報サービス支援	F21 工芸ウェブサイトの更新	今後継続して工芸セクターのステークホルダーのニーズにあった情報を一層充実させるために、定期的に工芸ウェブサイトの内容を更新し、拡充する。
	F22 ワンストップ工芸センターの設立	主要な省でワンストップセンターを設立し、必要な情報、投資に関するコンサルティングサービス、ビジネスパートナー、物流に関する支援を効率的に提供する。
	F23 僻地への遠隔情報サービス	農村部や僻地でも利用できる情報技術やシステムを活用し、より効率的な情報サービスを提供する。
F3 金融支援	F31 工芸セクターへの政府予算配分	工芸振興マスタープランに基づき、様々な政府機関において工芸セクターへの予算調整、支出調整を行なう。
	F32 既存融資制度へのアクセス改善	金融機関の貸付手続き上の障害を特定し、工芸中小企業及び工芸従事世帯に適した金融支援を行なう。
	F33 ODA の有効的活用	工芸セクター開発に ODA 事業をより効率的に用いる戦略やメカニズムを形成する。
F4 社会基盤整備	F41 市場への交通アクセスの整備	商品の市場への輸送が困難なために、工芸村や工芸従事世帯の事業機会に弊害がある地域を明らかにする。
	F42 工芸村の生活インフラ改善支援	工芸生産の振興のために必要な具体的な生活インフラを明らかにし、それらのニーズを工芸村の総合的インフラ開発プログラムとして統合することを目的とする。
	F43 工芸振興のための共同生産施設整備	工芸村での工芸生産活動をより効率的に推進するため、工芸村での工芸製作に関わる共有施設を整備し、生活インフラを改良する。
F5 人材育成	F51 政府機関内工芸セクター担当の人材育成	中央及び地方政府内に、工芸セクターを担当する人材を育成するためのメカニズムを確立する。
	F52 工芸セクターに関わる人材・組織データベースの確立	個人、公的機関、アソシエーション、NGO 等を含む、工芸セクターに関わる主要な人材や組織のデータベースを確立する。
	F53 海外交流プログラムの確立	工芸セクター関係者や工芸従事者を海外へ派遣し、又海外の工芸関係者がベトナムを訪問する機会を提供できるような、海外交流メカニズムを確立する。

表 7.12 「支援インフラの整備」に関わる関係省庁の役割分担<sup>1)</sup>

戦 略	中央政府		VCA	女性連合	博物館	金融機関	教育・研究機関	ビジネス支援団体	民間企業	NGO
	主要	支援								
F1 工芸振興に関わる法制度の確立	工芸振興カウンスル		A	A	A	B	A	B	B	A
F2 情報サービス支援	MOI	MOCI, MARD	A	-	-	B	-	A	B	A
F3 金融支援	MOF	MPI, MOI	B	B	-	A	-	A	-	B
F4 社会基盤整備	MOTrans	MOI	-	-	-	A	B	A	-	B
F5 人材育成	MOI	MOLISA	A	A	-	-	A	A	B	A

1) A: 主要な役割、B: 補助的役割



## 8. マスタープラン実現支援に向けた制度構築

### 8.1 背景

本調査では、工芸セクターに関わる様々な課題を包括的に明らかにし、ベトナム工芸セクターの持続的な振興と開発のための計画を構築した。提案したマスタープランにはビジョン、機補目的、戦略、アクションを含んでいるが、これらの戦略やアクションに対しては、セクター横断的かつクロスカッティングイシューに対して責任ある官と民の両セクターからの幅広いステークホルダーの協力のもとに取り組む必要がある。すなわち下記のような制度調整が重要な意味を持つ。

- イ) 工芸セクターに関する統合的な政策調整メカニズムの構築
- ロ) 工芸セクター振興に関わる中央省庁及び関係機関内での役割分担の明確化
- ハ) 中央政府と省政府間での効率的な政策協調
- ニ) 様々な工芸活動の主役である民間セクターに対して公平な立場を与えた効果的な官民パートナーシップの確立
- ホ) ドナー、NGO、工芸セクター関係機関とのネットワーク強化

### 8.2 政策提言に必要な調整

工芸セクター開発と振興をより効果的に進めていくためには、既存の組織体制をベースにした新たなメカニズムの構築が求められる。本調査を通じて、工芸セクターに関わる政府の政策が、工芸従事世帯や工芸村などの草の根レベルには効果的に反映していないことが明らかとなった。一方で、工芸従事世帯や工芸村が抱える課題やニーズは十分に中央政府にまで届いていない。そのため、中央と地方の政策や情報の流通メカニズムの合理化が非常に重要である。このような政府機関の協調を拡大するために、中央レベル及び省レベルにおいて、**工芸振興カウンスル**の設立を提案する(図 8.1 参照)。

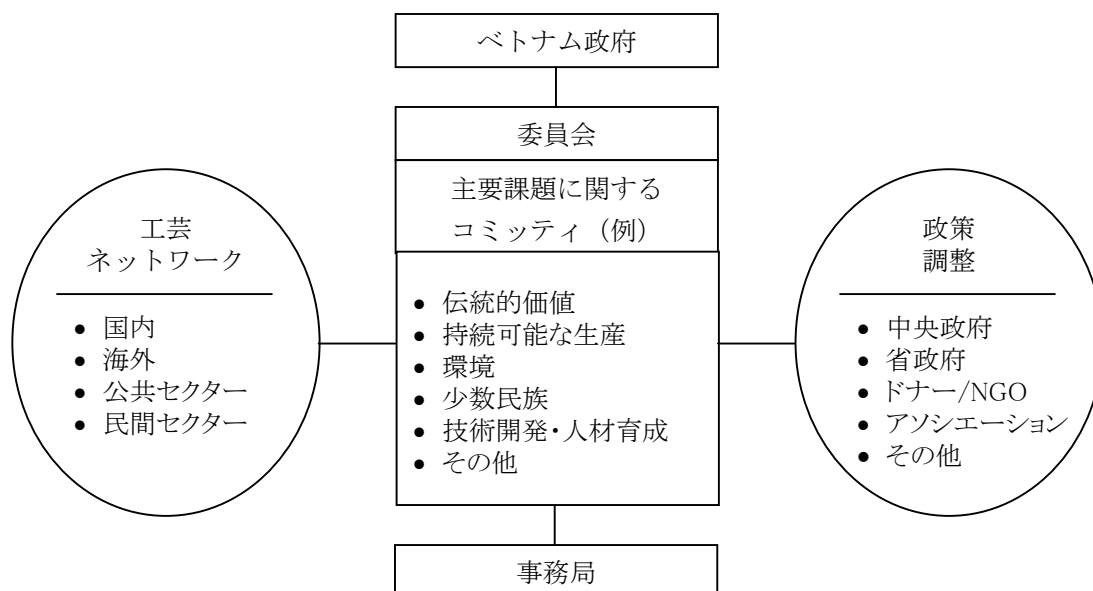
- イ) 工芸セクターに関わる政策の策定
- ロ) 工芸セクターに関わる様々な機関や組織の政策・プログラムの調整
- ハ) 工芸セクター開発に関わる国内外組織とのネットワークの拡大

ベトナムの伝統工芸が、将来にわたってベトナム社会のアイデンティティ・オリジナリティを保つ重要な柱であり得るためには、ベトナムの伝統工芸振興のあり方と今後の方向について、関係者の合意のとれたビジョンと、連携のとれた活動が必要とされる。ここにベトナム中央政府の最も基本的な役割がある。このためには持続的な伝統工芸振興と開発の枠組みづくり、関係者の連携を促すメカニズムの構築と実践が求められ、ここに本調査の成果が貢献しう。

ベトナムの伝統工芸を社会、文化、経済、環境面から総合的に保全振興してゆくためには、中央政府レベルでも多くの関係者があるが、コアとなるのは MARD、MOI、MOCI、MoTrade の4省庁である(表 8.1 参照)。

工芸カウンスルの必要性については、ステアリングコミッティでも基本的に認められ、省政府に対するアンケート調査<sup>1)</sup>によっても回答 38 省中 37 省が必要と応えている。

図 8.1 中央工芸カウンスルの組織概念



出典:JICA 調査団作成

表 8.1 中央工芸カウンスルのメンバー構成(提案)

	中央政府	関係機関
コア メンバー	1. 工業省(MOI) 2. 農業農村開発省(MARD) 3. 文化情報省(MOCI) 4. 商業省(MoTrade)	5. ベトナム合作社連盟(VCA) 6. 中央女性連合(Central WU) 7. 国立社会・人文科学研究センター(NCSSH) 8. ベトナム民俗学博物館(VME) 9. NGO 代表組織
参加 メンバー	1. 政府官房(Governmental Office) 2. 計画投資省(MPI) 3. 労働傷兵社会福祉省(MOLISA) 4. 教育訓練省(MOET) 5. 科学技術省(MOST) 6. 自然環境省(MONE) 7. 観光局(VNAT) 8. 外務省(MOFA) 9. 財務省(MOF) 10. 保健省(MOH) 11. 法務省(MOJ) 12. 建設省(MOC) 13. 交通省(MOTransport) 14. 郵政通信省(MOPT) 15. 統計局(GSO) 16. 少数民族委員会(CEM)	17. ベトナム商工会議所(VCCI) 18. ドナー

出典:JICA 調査団作成

<sup>1)</sup> 2003 年 11 月に省政府に対するフォローアップ調査として、全省 DARD 又は DOI を対象に工芸振興マスタープラン(案)を送付し、提案した目的・戦略・アクションプランや工芸振興カウンスル設立に対する意見を求めた。

## 9. 省レベルマスタープラン

### 9.1 モデル省マスタープランの作成

モデル省はパイロットプロジェクト活動を重点的に行なう地域であるが、同時にこれらの経験をもとに中央レベルでの政策と工芸村/コミュニンレベルの課題を調整し、具体的な施策を実施する主体としての役割を果たすことが求められており、このためには総合的なマスタープランが必要と考えられる。省レベルのマスタープランの基本的な役割を明らかにするとともに、下記の具体的な目的を考慮してモデル省マスタープランの作成を行なった。

- イ) パイロットプロジェクトの計画・実施を通じて、政策フレームワークの実効性を検証するとともに、パイロットプロジェクトの持続可能性と反復性（一定条件下で他の地域への適用ができること）を確認すること
- ロ) 4地域（北部、中部、南部、山岳地帯）の特性と開発ポテンシャルに応じた地域別の工芸振興の方向性を示すこと
- ハ) 地場産業の核である、コミュニンや工芸村での工芸振興活動に直接インパクトを与えられるよう、具体的な政策と支援策（アクションプラン・プロジェクト）を示すこと

モデル省マスタープランは、各省のイニシアティブによって作成されるよう、調査団は側方からの支援体制をとった。即ち中央レベルで策定したマスタープランの構成に則って、各省のマスタープランをモデル省ワークショップを通して作成する方法をとった。しかし省レベルでのプランニング能力にはまだ改善の余地が多く、省政府関係者の人材育成などの支援が必要と考えられる。

### 9.2 省政府によるマスタープランへの関心

#### イ) 工芸カウンシルの役割<sup>1)</sup>

省レベルでの工芸カウンシルの設立には殆どの省がその必要性を認めた。同時に全省 DARD 又は DOI を対象に工芸振興マスタープラン（案）を送付し、提案した目的・戦略・アクションプランや工芸振興カウンシル設立に対する意見を求めた。工芸振興カウンシルの基本機能を、政策や計画実施を担うべきであると回答する省が3分の2を占め、カウンシルを単なる工芸支援組織としてでなく、主に政策決定を担う機関として期待する省が多いことが明らかとなった（表 9.1 参照）。

表 9.1 省政府による工芸振興カウンシルの基本機能（%）

(1) 政策決定やプロジェクトの実施	65.7
(2) 関係機関やステークホルダー間の調整	20.0
(3) 省政府への助言	4.3

出典：2003 年省政府フォローアップ調査

<sup>1)</sup> 結果は 2004 年 1 月 14 日までに回収された 38 省についてまとめた。

具体的には“工芸品の振興”(88%)、“工芸セクター振興と開発のための情報管理システムの構築”(82%)、“関係機関に対する政策やプロジェクトへの助言”(79%)、“生産グループに対する支援”(76%)、“工芸セクターに関する政策の策定”(76%)に特に強い関心が示された(表 9.2 参照)。

表 9.2 省政府による工芸振興カウンスルの果たすべき役割

工芸振興カウンスルの果たすべき役割			省の数		% <sup>1)</sup>	
			必要である	必要でない	必要である	必要でない
1	工芸セクターに関する政策の策定		25	8	<b>75.8</b>	24.2
2	関係機関やステークホルダー間の調整	中央政府との調整	12	21	36.4	63.6
3		ディストリクトとの調整	23	10	69.7	30.3
4		コミュニティ・工芸村との調整	19	14	57.6	42.4
5	関係機関に対する政策やプロジェクトへの助言		26	7	<b>78.8</b>	21.2
6	ステークホルダーに対する支援	民間セクター	20	13	60.6	39.4
7		生産グループ、家内工業や生産者	25	8	<b>75.8</b>	24.2
8	工芸品の振興		29	4	<b>87.9</b>	12.1
9	工芸セクターに関わるステークホルダーとのネットワーク構築		21	12	63.6	36.4
10	工芸セクター振興と開発のための情報管理システムの構築		27	6	<b>81.8</b>	18.2

出典：2003 年省政府フォローアップ調査

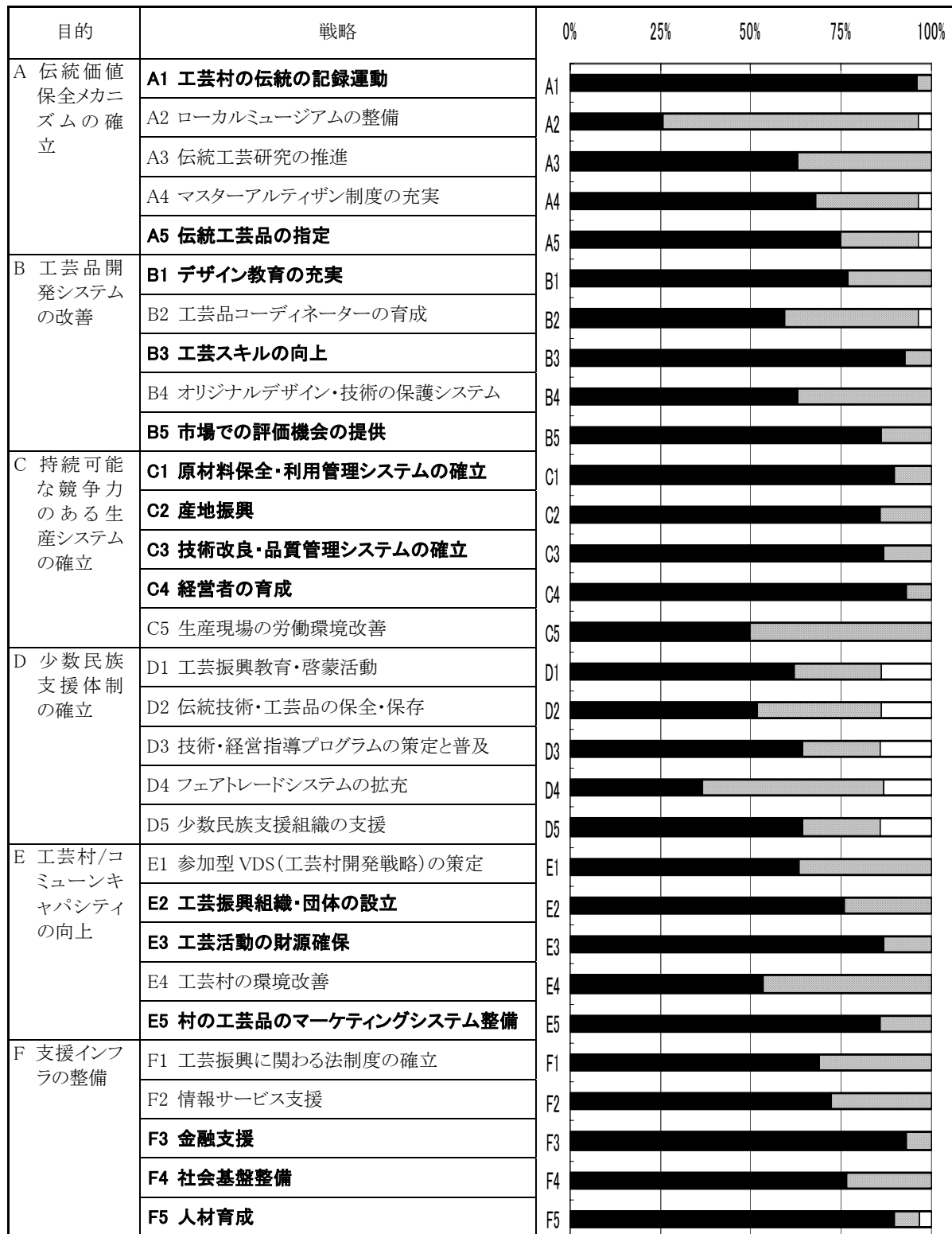
1)太字は 75%以上の回答を示す。

#### ロ) 省政府による“戦略”の重要性

提案した6つの基本目的と 90 の戦略についての省政府の反応は何れも肯定的である。相対的に低く評価されている“少数民族支援体制の確立”についても、少数民族問題が政策 이슈にならない省が多くあることを考えると、関係省での関心は高い。戦略レベルでみて最も重要度が高い(75%以上が重要と考えている)戦略は順に下記である(図 9.1 参照)。

- (1) A1: 工芸村の伝統の記録運動 (96.2%)
- (2) C4: 経営者の育成 (93.1%)
- (3) F3: 金融支援 (93.1%)
- (4) B3: 工芸スキルの向上 (92.9%)
- (5) C1: 原材料保全・利用管理システムの確立 (89.7%)
- (6) F5: 人材育成 (89.7%)
- (7) C3: 技術改良・品質管理システムの確立 (86.7%)
- (8) E3: 工芸活動の財源確保 (86.7%)
- (9) B5: 市場での評価機会の提供 (86.2%)
- (10) C2: 産地振興 (85.7%)
- (11) E5: 村の工芸品のマーケティングシステム整備 (85.7%)
- (12) B1: デザイン教育の充実 (76.9%)
- (13) F4: 社会基盤整備 (76.7%)
- (14) E2: 工芸振興組織・団体の設立 (75.9%)
- (15) A5: 伝統工芸品の指定 (75.0%)

図 9.1 省政府による各戦略の重要性



出典：2003 年省政府フォローアップ調査

1)太字は A が 75%以上の回答を示す。

2)A(黒):重要、B(斜線):ある程度重要、C(白):重要でない、の3段階評価による。

## ハ) 省政府による“アクション”の重要性

さらにアクションレベルでの重要性(75%以上が重要と考えている)をみてみると下記のようになる(図 9.2, 図 9.3 参照)。

(1) B51: 国内外の品評会・展示会への参加支援	(91.4%)
(2) C32: 技術改良とそのための設備投資支援	(91.2%)
(3) F41: 市場への交通アクセスの整備	(88.9%)
(4) B53: バイヤーとのマッチングシステムの整備	(88.6%)
(5) E53: 地場の材料と技術を活かした商品開発	(88.6%)
(6) A11: 発掘・記録のガイドライン作成	(87.9%)
(7) E22: コーポラティブの工芸振興活動支援	(86.5%)
(8) F31: 工芸セクターへの政府予算配分	(86.5%)
(9) F51: 政府機関内工芸セクター担当の人材育成	(86.5%)
(10) C13: 原材料の品質改善	(85.7%)
(11) F33: ODA の有効的活用	(85.7%)
(12) B31: 工芸スキルの特定	(85.3%)
(13) C41: 経営管理マニュアルの作成	(85.3%)
(14) E32: 既存制度金融へのアクセス方法の確立	(84.8%)
(15) C11: 原材料の実態調査	(83.3%)
(16) F32: 既存制度金融へのアクセス改善	(83.3%)
(17) A12: 工芸村の伝統の保全と記録	(81.8%)
(18) F43: 工芸振興のための共同生産施設整備	(81.1%)
(19) C43: 工芸中小・零細企業支援制度の確立	(80.0%)
(20) E33: ODA へのアクセス方法の検討	(78.4%)
(21) C42: 起業家支援制度	(77.1%)
(22) E51: 産地工芸品“取説”と商標作成と認定	(77.1%)
(23) E52: 観光ルート/観光客受け入れ態勢の整備	(77.1%)
(24) C33: 職業訓練学校の充実	(76.5%)
(25) B11: 既存教育機関でのデザインカリキュラムの作成	(75.8%)
(26) B33: 工芸スキル訓練システムの構築と普及	(75.8%)
(27) D51: 少数民族支援組織の拡充と政府との連携強化	(75.8%)
(28) E21: 工芸アソシエーションの設立支援	(75.7%)
(29) A43: マスターアルティザンの交流	(75.0%)
(30) D52: 少数民族支援モデルの作成	(75.0%)
(31) F21: 工芸ウェブサイトの更新	(75.0%)

図 9.2 省政府によるアクションの重要性(戦略 A,B,C)



出典：2003 年省政府フォローアップ調査

1)太字は A が 75%以上の回答を示す。

2)A(黒):重要、B(斜線):ある程度重要、C(白):重要でない、の3段階評価による。



図 9.3 省政府によるアクションの重要性(戦略 D,E,F)



出典：2003 年省政府フォローアップ調査

1)太字は A が 75%以上の回答を示す。

2)A(黒):重要、B(斜線):ある程度重要、C(白):重要でない、の3段階評価による。

### 9.3 地域別の工芸開発の方向性

#### イ) 地域別の“戦略”の重要性

北部、中部、南部、山岳地帯<sup>1)</sup>の4地域別に、戦略に対する重要性を比較した(図9.4参照)。

少数民族支援体制に関わる戦略の重要性が全般に山岳地帯や中部で相対的に高い他は、何れも同じような戦略の重要性を認めているが、これらの情報はマスタープランをもとに実際の政策を具体的に作成し実践していく過程で重要な情報ベースとなるものである。

地域別に重要な戦略をみると、その特徴は下記のようにまとめられる。

**北部:** 工芸村が最も集積している紅河デルタ地域では、他地域に比べてどの戦略も比較的高く重要視している。特に“B5:市場での評価機会の提供”、“C1:原材料保全・利用管理システム”、“C2:産地振興”、“C4:経営者の育成”、“E3:工芸活動の財源確保”、“E5:村の工芸品のマーケティングシステム”、“F1:工芸振興に関わる法制度の確立”、“F3:金融支援”、“F4:社会基盤整備”、“F5:人材育成”と、10 の戦略について、回答した全ての省が重要と答えている。特に北部では工芸村数が多いものの、人材、資金、技術、全ての面においてキャパシティが脆弱であることから、個々の工芸村のキャパシティ強化とインフラ整備を進めつつ、工芸クラスターとして発展させていきたいとする省が多いといえる。

**中部:** 他の地域に比べて工芸村数が少なく、工芸振興があまり盛んではない地域であるが、フエやホイアンといった文化遺産地域を含むことから、“A3:伝統工芸研究の推進”に対する関心は比較的高い。また、“B1:デザイン教育の充実”、“B2:工芸品コーディネーターの育成”、“E5:村の工芸品のマーケティングシステム”など、商品開発に関わる戦略を重視しており、工芸品の市場競争力の向上を望む省が多いことが分かる。同時に“F2:情報サービス支援”、“F5:人材育成”などの基盤整備も急務である。

**南部:** 工芸が技術や市場アクセス等の面で進んでいるHCMCを中心とした南部では、基本目的“B:工芸品開発システムの改善”や“C:持続可能な競争力のある生産システムの確立”など、主に商品・デザイン開発や市場開拓に向けた戦略を重視する地域が多い。また、“E2:工芸振興組織・団体の設立”を重要とする一方で、基本目的“E:工芸村/コミュニンキャパシティの向上”に関わる他の戦略には関心が低いことから、南部では工芸村単位よりむしろ組織や企業単位での競争力強化を望む地域が多く、またそのポテンシャルも高い地域といえる。ただしメコンデルタについては、HCMC から地理的に遠く、インフラ整備も整っていない点に留意する必要がある。

**山岳地帯:** 北部山岳地帯及び中央高地には少数民族が多く、伝統的工芸品が豊富な一方で、市場でのポテンシャルは低く、また貧困率が高くインフラが未整備なことから、工芸振興は

<sup>1)</sup>北部(紅河デルタ、北部中央沿岸地域を含む対象 14 省のうち回答のあった 6 省)、中部(北部・南部中央沿岸地域を含む対象 9 省のうち回答 6 省)、南部(南部北東地域、メコンデルタを含む対象 20 省のうち回答 6 省)、山岳地帯(北西部、北東部、中央高地を含む対象 18 省のうち回答 10 省)に大別し、集計した。

困難な状況にある。比較的関心の高い“A1:工芸村の伝統の記録運動”、“A4:マスターアルティザン制度の充実”、“B3:工芸スキルの向上”、“C1:原材料保全・利用管理システム”、“C3:技術改良・品質管理システム”、“C4:経営者の育成”など、伝統保全、品質・技術改良、経営能力向上など、様々な角度からの支援が求められる。また、“E3:工芸活動の財源確保”、“F3:金融支援”など、資金面での支援が重要であり、省政府や地方政府の開発計画、特に少数民族支援計画のなかに、適切に工芸振興計画を組み込んでいくことが求められる。

図 9.4 地域別・省政府による各戦略の重要性

目的	戦略	北部				中部				南部				山岳地帯			
		25	50	75	100	25	50	75	100	25	50	75	100	25	50	75	100
伝統価値保全メカニズムの確立	A1 工芸村の伝統の記録運動																
	A2 ローカルミュージアムの整備																
	A3 伝統工芸研究の推進																
	A4 マスターアルティザン制度…																
	A5 伝統工芸品の指定																
工芸品開発システムの改善	B1 デザイン教育の充実																
	B2 工芸品コーディネーターの育成																
	B3 工芸スキルの向上																
	B4 オリジナルデザイン保護システム																
	B5 市場での評価機会の提供																
競争力のある生産システムの確立	C1 原材料保全・利用管理…																
	C2 産地振興																
	C3 技術改良・品質管理システム…																
	C4 経営者の育成																
	C5 生産現場の労働環境改善																
少数民族支援体制の確立	D1 工芸振興教育・啓蒙活動																
	D2 伝統技術・工芸品の保全・保存																
	D3 技術・経営指導プログラム…																
	D4 フェアトレードシステムの拡充																
	D5 少数民族支援組織の支援																
工芸村・コミュニティの向上	E1 参加型 VDS の策定																
	E2 工芸振興組織・団体の設立																
	E3 工芸活動の財源確保																
	E4 工芸村の環境改善																
	E5 村の工芸品のマーケティング…																
支援インフラの整備	F1 工芸振興に関わる法制度の確立																
	F2 情報サービス支援																
	F3 金融支援																
	F4 社会基盤整備																
	F5 人材育成																

出典：2003 年省政府フォローアップ調査

1)数値は%

2)A(黒):重要、B(斜線):ある程度重要、C(白):重要でない、の3段階評価による。

## ロ) 地域別の工芸振興の方向性

本調査、特にマッピング調査、現地調査、省政府フォローアップ調査の分析に基づき、地域別の工芸振興の方向性をまとめた(表 9.3 参照)。

表 9.3 地域別の工芸振興の方向性

地域		工芸振興のための方向性
北部	紅河デルタ地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業との兼業が多く、工芸村の集積が見られる地域であり、産地の組織化・共同化を推進し、労働集約型の工芸振興を目指す。</li> <li>・ 都市部へのアクセス向上や情報提供により、観光工芸村との一層の連携を図る。そのためのインフラ・設備投資を推進する。</li> <li>・ 南部に比べて市場対応型商品の開発が遅れているため、伝統工芸品の技法や地場原料の活用とあわせた工芸村での新商品開発支援を進める。</li> </ul>
中部	北部中央・南部中央沿岸地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 豊富な自然資源を活かし、原材料供給地としての発展を目指す。原材料加工業では品質の安定と技術改良を推進する。</li> <li>・ フェやホイアンを中心とした文化保全地域では、歴史的観光資源の一つとして工芸村を位置づけ、観光推進のための資源として工芸振興を図る。</li> <li>・ 伝統工芸品について研究調査を進め、諸外国との文化・学術交流を図る(既存の歴史・文化調査との連携)。</li> </ul>
南部	南部北東地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ HCMC を中心とした都市周辺部では、工芸関連企業の誘致を進め、新技術導入、新商品開発など、輸出に重点を置いた、国際競争力のある工芸振興を図る。</li> </ul>
	メコンデルタ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農産加工業の一つとして、地場原材料(植物等)を活かした工芸品を発展させる。</li> <li>・ 農村部の工芸品が都市部の市場までアクセスできるよう、インフラ整備と流通システムの改善を図る。</li> <li>・ 農産物の地元市場で工芸品を販売し、国内市場を強化するとともに、農村観光等による観光開発との連携を図る。</li> </ul>
山岳地帯	北東部・北西部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国の経済成長の影響と恩恵を受け難い地域であり、また工芸振興に対する政府の意識も高くない。社会開発・文化保全の視点から、工芸振興を省政府の開発方針により明示的に位置づける。</li> <li>・ 少数民族の生活や文化、伝統的価値を重視し、自立と持続可能な農村開発を推進するという全体の枠組みのもとで工芸の振興を図る。</li> <li>・ 市場アクセスの良い地域を中心に伝統工芸を復興させ、少数民族の定住促進を図る。</li> <li>・ 原材料の供給地であることから、原材料供給・加工計画を作成し、他地域への流通や市場開拓を図る。</li> <li>・ 観光ポテンシャルのある地域に省内の工芸品を集め、直販や展示などを行なう。</li> </ul>
	中央高地	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記(北東部・北西部山岳地帯)の項目は何れも当てはまる。</li> <li>・ 豊富な自然資源を活かし、原材料供給地としての発展を目指す。原材料加工業では品質の安定と技術改良を推進する。</li> </ul>

出典:JICA 調査団作成

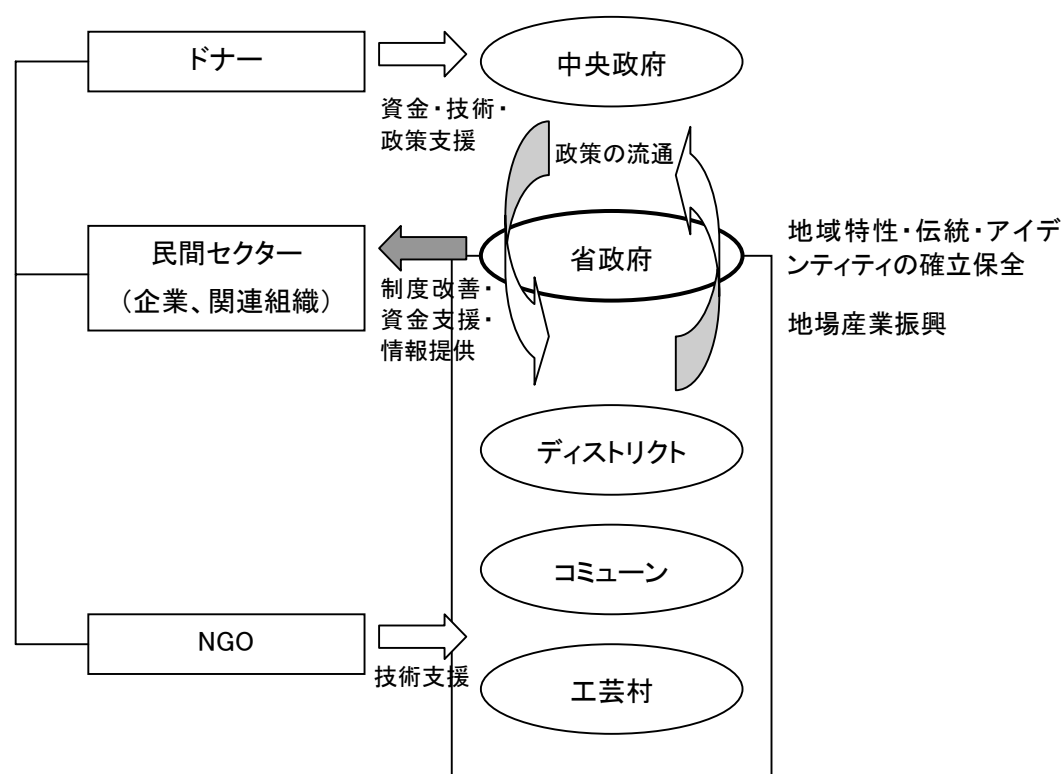
#### 9.4 工芸振興政策における中央政府と省政府の連携のあり方

工芸振興に関わる中央レベルでのビジョンと基本目的は、何れの省でも同時に重要と考えられる一方で、具体的な戦略やアクションについては省によって異なるが、これは地域の特性やニーズが異なるためで当然の結果である。

そのため工芸振興にあたっては、中央政府が示すビジョンと基本目的に則り、各地域の省政府が中心となって、より具体的な政策・制度提案と支援を実践することが求められる。先に述べたように、省政府には、中央政府の政策をコミュニン・工芸村が裨益するよう具現化すること（上から下への政策の流通）、コミュニン・工芸村の現状や課題を把握し、支援を行なうとともに、必要に応じて中央政府に伝えていくこと（下から上への政策の流通）、そして民間セクター活性化のための環境・基盤整備を行なうこと（官から民への政策の流通）という3つの重要な役割がある。すなわち省政府マスタープランは、これら3つの役割を果たすためのツールとなるよう、より詳細に計画される必要がある。

マスタープランの実現にあたっては、本調査で実施したパイロットプロジェクトのように、特定地域において具体的な目的の実現のための計画を実施し、各地域に普及させることで、産地での教訓や課題を反映して作成されることが望ましい。省政府マスタープランに基づいた産地でのプロジェクトの実施と支援、それを支援するための中央政府マスタープランによる政策支援が、中央政府と省政府のあるべき連携の姿といえよう（図 9.5 参照）。

図 9.5 政府・組織間の連携のあり方と政策の流通



出典:JICA 調査団作成

## 10. 結論と提言

**結論:** 本調査の実施を通じて、ベトナム工芸セクターの意義と重要性がより明確となった。工芸マッピング調査では、2000以上の工芸村が存在し、約150万人の農村雇用を創出しており、工芸従事世帯の生活水準の向上に寄与していることが明らかとなった。工芸セクターの輸出振興は著しく、今後も増加していくことが予想される。また、ベトナムの工芸村は長い歴史と特有の文化価値を持ち、ベトナムの社会と文化の形成に大いに貢献している。ベトナム工芸セクターは経済、社会、文化、環境に強く関係しており、この振興と開発は包括的な視点に立って検討されなければならない。

ベトナム工芸品は、国内では市場経済化への移行と民間セクターの活発化、また農村工業化や農村部の生活改善によって、また海外市場では自然素材の見直しや伝統的文化に対するニーズの高まりなど、多くの成長要因が存在する。その一方で、工芸の意義と価値に対する国民の意識欠如、伝統的価値の衰退と認識不足、環境への悪影響、他アジア諸国との競争激化、商品開発・デザイン能力の欠如など、工芸振興を阻害する要因も多い。

ベトナム工芸振興は、農村部(特に貧困層)の生活向上と経済発展、地場産業の育成と地域振興に貢献するとともに、ベトナム文化と伝統のアイデンティティの確立、自然環境に優しい持続可能な産業として確立される必要がある。これらを実現するために最も重要なのは、これまでばらばらに行われてきた工芸関係者やその活動を取りまとめるために、国として工芸振興の共通目標を持ち、その目標に向かって各ステークホルダーが役割と責務を担い、具体的な行動を起こすことが出来るよう、政府や関係組織が具体的な目標実現に向けた支援を行っていくことである。

ベトナムの工芸セクターが長い歴史を経て発達してきたように、将来に向かっての持続的な開発には社会全体の運動として長期的な取り組みが必要である。このために本調査の成果である総合的な三層マスタープランと提案する中央、省、産地レベルでの工芸カウンスル又はそれに準ずる政策調整メカニズムは、ベトナムの工芸振興と開発を推進するための具体的なツールとなり得るものである。この中で特に重要と考えられる諸点は下記である。

**①政府の役割と連携:** 政府及び公的機関の基本的な役割は、民間セクターが競争力を持って活発な活動が出来るような環境を整備することにある。農村振興を担う MARD、商工業振興を担う MOI や MOT、伝統保全を担う MOCI が中心となり、また自然環境保全を担う MONE や品質・技術改良を担う MOST、人材育成を担う MOST、社会・労働環境向上を担う MOLISA 等、多くの中央省庁が連携し、関連する課題への包括的支援のなかで工芸セクター振興を進めていく。また、各産地や地域を取りまとめるのは省政府の役割である。特に地域特性が重要なファクターとなる工芸品産業を振興するためには、省政府が地域特性と課題を理解し、産地間、地域間の競争を高めつつお互いが振興出来るよう、常に情報を収集・公開しつつ、工芸村が裨益出来る具体的支援を行なう役割を担う。そして政府の役割のなかで特に留意すべき点は、ハンディキャップを負った地域や貧困層が、工芸セクターの振興の過程

で、自立のための支援が十分に得られるようなメカニズムを確立することであり、ジェンダーや子供の就労についても十分な配慮がされなければならない。

**②伝統の保全と振興:** 工芸品の価値はマーケットでの評価だけでなく、伝統文化としての評価も重要である。そのためには地域で伝統価値を守るためにその技術や文化を発掘・研究し、情報を国内外に発信していく。伝統価値は国内やアジア地域で受け継がれてきた文化として幅広く評価されていくことで、その保全が可能となる。

**③地域特性を活かした産地振興:** 農村部の工芸従事者（特に貧困層や少数民族等）が適正な利益を得られ、今後の市場競争社会に徐々に移行しながら、農村部で工芸に従事し続けられる環境をつくるためには、工芸村や地場組織が工芸品産地として一定の規模と組織を形成することが重要であり、これにより産地間での競争と差別化、連携を図ることで、地域特性を活かした産地振興を図ることが出来る。

**④活動支援組織・人材の充実と活性化:** 情報や支援が不足している農村部が産地や組織を形成し、自らの目標に向かって活性化していくためには、BDS プロバイダーや NGO といった支援組織の支援が必要である。これら活動支援組織は、地域の特性を捉え、生産地や従事者に情報を伝え、産地とともに支援策や活動方法を検討し、具体的な支援を行なう。

**⑤民間セクターの活性化:** 工芸品のマーケティング戦略を形成するためには、民間セクターの活性化が不可欠である。民間セクターが、政府による工芸振興の目標を理解し、工芸村まで利益が還元されるような流通システムや市場メカニズムを形成出来るよう、指導、支援を行なう。

**⑥長期的課題への取り組み:** 持続可能な工芸振興の発展のための課題として述べた、伝統保全、自然環境保全、社会環境向上については、これらの課題が社会に理解され、長期的、全国的な動きとして取り組む必要がある。政府はこれらの長期課題に対して、産業界、教育界と協力して取り組み、国民の理解と協力、アジア諸国との連携を図っていく。

**提言:** ベトナムの工芸セクターの持続的な発展のために重要かつ最も基本的な諸点の実施を提言する。

**①工芸振興行政の枠組みの確立:** 提案する三層マスタープランと工芸カウンスルの設置を制度化し、工芸セクターにおける行政の枠組みを確立する。これによって長期的、総合的な取り組みが可能となるベースができ、国内外のステークホルダーの効果的な連携が促進され、さまざまな技術や財政支援が得やすくなり、運用も効果的に行われる。ベトナムにおいて中央政府の果たすべき役割は大きく、全国の省を指導し、技術や資金面での支援をするための具体的な方策が必要である。このために全国レベルで“工芸セクター振興ファンド”を設け、省レベルでの活動を実質的に支援する。

**②省レベルでの持続的工芸開発モデルの確立:** 工芸セクターの開発の中核を担うのが省であることが明らかになったが、省レベルでの政策フレームや工芸セクターの効果的な振興メカ



ニズムは不十分である。モデル省において工芸マスタープランの作成を試み一定の成果を得た。しかし工芸振興と開発における省の重要性を考えると、省レベルでの政策フレームと実施体制の確立が非常に重要であることが改めて認識されるに至った。このためには新たにモデル省を選定して、マスタープランの策定、組織・制度の確立、プロジェクト実施、等を総合的に行って、省レベルでのプランづくりやアソシエーション設立を通じての様々な支援も具体的に行われる必要がある。

**③アクションデータシートの具体化と実践:** 本調査で合計 90 のアクションを提案したが、これらは何れもベトナムの工芸セクターの振興と開発に直接的に関わるものである。しかしそれぞれのアクションの内容は充分具体的になっておらず、プライオリティが高いと考えられるものから具体化して実践する。この過程でドナー、NGO、民間企業等ステークホルダーの参加を幅広く求めていくことが重要である。

最後に最終ステアリングコミッティとセミナーにおいて採択された、ベトナム工芸セクターの持続的発展のための宣言文を示す(図 10.1 参照)。

図 10.1 ベトナム工芸セクター振興のための宣言

- ベトナムの伝統工芸はベトナムの文化・社会・経済・環境に深く根ざし、ベトナム社会のアイデンティティ・オリジナリティを支えてきた重要なセクターである。
- ベトナムの伝統工芸は農村地域・山岳地域における重要な所得向上手段であり、こうした地域の貧困削減にも貢献している。同時にその生産システム(工芸村)は、豊かなコミュニティの成立に役立っており、訪問者にとっても大きな魅力となっている。一方、近代化・市場経済化が進むなかで、伝統価値の喪失、継承者の不足、原材料不足などの問題が深刻になりつつある。
- ベトナムの伝統工芸は国際市場での競争力を高めつつあり、大都市及び近郊の組織化された生産システムを通して輸出額が急増しており、経済成長への貢献が顕著にみられる。その一方で伝統的価値を失いつつあり、その持続可能性は必ずしも保証できるものではない。
- ベトナムの伝統工芸の将来は、伝統価値・オリジナリティを保全しつつ、国内外の市場での競争力を高め続け、同時に困難地域の工芸従事者の所得向上、労働環境改善、生産地の環境保全を進めるという大きな課題を如何に克服するかに大きくかかっている。
- ベトナムの伝統工芸は、多くの組織・関係者が連携した保全・開発のメカニズムを確立することが求められている。このベースとして、変貌する社会や生活のなかで、もっと多くの人に日常的に使われることで鍛えられるよう、“生きた保存”が運動として社会に組み込まれることが重要である。

## アペンディクス A: 開催セミナー・ワークショップリスト

セミナー・ ワークショップ等	内容	参加者 (参加人数)
NGO ミーティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>工芸振興、農村開発等の NGO 関連プロジェクトの活動状況報告</li> <li>2002 年 3 月 7 日にハノイで開催</li> </ul>	国際 NGO6 機関、現地 NGO1 機関
マッピング調査コンサルテーションミーティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>本調査の概要説明</li> <li>全国工芸マッピング調査の説明、各省との協力体制の構築</li> <li>2002 年 3 月 15 日にハノイ、3 月 22 日にダナン、4 月 5 日に HCMC で開催</li> </ul>	全 61 省、MPI、MARD など関連中央省庁からなど全 120 名
第 1 回セミナー及び展示会・品評会	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の地場産業・地域振興事例の紹介</li> <li>全 61 省から収集したベトナム工芸品の品評</li> <li>アジア各国及び日本の工芸品の展示</li> <li>2002 年 6 月 29・30 日に HCMC、7 月 2・3 日にハノイで開催</li> </ul>	中央省庁、省レベル政府機関、NGO、関連企業、マスコミなど、HCMC93 名/ハノイ 204 名
フォーカスグループディスカッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベトナムの現地事情 (ベトナム側の問題意識、制度・組織面の枠組み、パイロットプロジェクトへの対応能力等) を考慮した、以下の 5 つの主要課題に関する議論 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 工芸品の伝統的価値とデザイン振興</li> <li>② 生産工程とビジネスマネジメント</li> <li>③ 工芸品のマーケット開発及び流通マネジメント</li> <li>④ 少数民族コミュニティにおける工芸品開発と振興</li> <li>⑤ (ハタイ省を例とした) 省レベルでの工芸セクター開発</li> </ul> </li> <li>2002 年 9 月 4,6,9,11 日にハノイ、9 月 13 日にハタイ省で開催</li> </ul>	主要課題に関連する組織 (MOT や MOLISA など中央省庁、関連企業、教育機関、NGO など) 延べ 86 名
モデル候補省選定ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>マッピング調査結果の報告、パイロットプロジェクト案及びモデル候補省選定プロセスに関する提案と意見交換</li> <li>2002 年 9 月 30 日に HCMC、10 月 1 日にハノイで開催</li> </ul>	50 省 (北部 30 省、南部 20 省)
各パイロットプロジェクトのワークショップ等	PP1 - ウェブサイト利用トレーニングコース (4 日間、2003 年 2 月、MARD)	4 モデル省関係者
	PP2 - 企業診断後のワークショップ (2002 年 11 月～2003 年 5 月、全 3 回、DOI 又は DARD)	DOI/ DARD、参加企業
	PP3 - 写真撮影トレーニング (2002 年 11 月と 12 月、各 1 回、対象村) - 村での展示会 (2003 年 8 月、1 週間、対象村) - 民俗学博物館での展示会 (2003 年 9 月、1 ヶ月)	参加村民、DOI/DARD
	PP4 - デザイン振興システムワークショップ (ハノイ工業デザイン大学、2003 年 2 月、1 日) - デザインガイドブック紹介のための最終セミナー (2003 年 7 月、ハノイ工業デザイン大学及び HCMC 人民委員会、各 1 日)	デザイナー、学生、企業
	PP5 - 開発工芸品展示会及びセミナー (2003 年 9 月、ハノイ、1 日)	マスターアルティザン、デザイナー、工芸品店主、芸術家
各パイロットプロジェクトのワークショップ等	PP6 - ワーキンググループミーティング (2003 年 6-9 月、計 3 回、対象村) - 最終ワークショップ (2003 年 9 月、1 日、対象村)	DOI, DONE, DOTourism, 村人民委員会
	PP7 - オリエンテーションワークショップ (2002 年 12 月、各 3 日、対象コミュニティ) - 経営マネジメント、デザイン、識字に関するトレーニング (2003 年 8-12 月、対象村) - スタディーツアー (2002 年 11 月にハノイで 4 日間、2003 年 4 月にラオカイ省で 4 日間) - ビジネスプラントレーニンングワークショップとスタディーツアー (2003 年 5 月にハノイで 4 日間) - ビジネス・マーケティングワークショップ (2003 年 7 月、各 1 日、対象村) - 省セミナー (2003 年 11 月、各 1 日、省都)	少数民族グループ、コミュニティ女性連合、NGO、VCCI、DOI/ DARD

	PP8	<ul style="list-style-type: none"> <li>- ワーキンググループ選定ワークショップ(2002年11月、各1日、対象村)</li> <li>- PRAトレーニングと現況分析(各10日間、対象村)</li> <li>- ビレッジミーティング(2003年5-6月、各1日間、対象村)</li> <li>- 省セミナー(2003年6月ハタイ省、9月ニンビン省、各1日間、対象村)</li> <li>- ハノイセミナー(2003年9月、MARD、1日)</li> </ul>	プロジェクト参加村民、村・コミュニン・ディストリクト人民委員会、女性連合、農民連合、企業、DARD、NGO、ドナー
第1回パイロットプロジェクトワークショップ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8つのパイロットプロジェクトの目的や内容、進捗状況等の各タスクマネージャーによる報告</li> <li>・ 省政府関係者からの中間評価コメントと意見交換</li> <li>・ 2003年2月24日にハノイで開催</li> </ul>	8PPのタスクマネージャー及び関係者、省政府関係者(7省)
第2回パイロットプロジェクトワークショップ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8つのパイロットプロジェクトの進捗状況や課題、マスタープランへの提言等の各タスクマネージャーによる報告</li> <li>・ 中央政府及び省政府関係者からのコメントと意見交換</li> <li>・ 2003年7月9日にハノイで開催</li> </ul>	8PPのタスクマネージャー及び関係者、中央政府関係者、省政府関係者(7省)
第3回パイロットプロジェクトワークショップ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8つのパイロットプロジェクトの活動成果・得られた教訓等の各タスクマネージャーによる報告</li> <li>・ 中央政府及び省政府関係者からのコメントと意見交換</li> <li>・ 2003年9月26日にハノイで開催</li> </ul>	8PPのタスクマネージャー及び関係者、中央政府関係者、省政府関係者(7省)、PP参加村民
ベトナム工芸コンペティション第1次審査会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全応募作品186点から第1次審査通過作品100点を選定</li> <li>・ 写真及び図面による審査を実施</li> <li>・ 2004年9月29日にハノイで開催</li> </ul>	審査コミッティ(日本人審査員2名、ベトナム人審査員3名)
モデル省ワークショップ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査概要、パイロットプロジェクト成果、ドラフトマスタープラン概要の説明</li> <li>・ 省の現状と工芸振興の方向性、省レベル工芸振興マスタープラン構築にあたっての意見交換</li> <li>・ 2003年10月24日ハタイ省、11月7日ライチャウ省、11月11日アンザン省、11月13日クアンナム省で開催</li> </ul>	各省政府関係者(省PC、DARD、DOI、DOCI、DoTrade、DOST、DoTourism等)、中央政府(MARD、MOI)、関係機関(WU、省VCA等)、工芸企業・職人等
最終セミナー・展示会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査全体の報告、日本及びタイの工芸振興事例の紹介</li> <li>・ パイロットプロジェクト開発工芸品の展示</li> <li>・ 2004年1月7日にハノイ、1月12日にHCMCで開催</li> </ul>	中央省庁、省政府機関、パイロットプロジェクト関係者、NGO、マスコミなど、ハノイ171名/HCMC110名
ベトナム工芸コンペティション最終審査会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1次審査通過作品100点から入賞作品20点を選定</li> <li>・ 5つの選定基準(創造力、使いやすさ、デザイン、伝統、魅力)に則って審査委員会による審査と講評</li> <li>・ 2004年1月8日にハノイで開催</li> </ul>	審査コミッティ(日本人審査員6名、ベトナム人審査員6名)、第1次審査通過者83名、省政府機関、マスコミ等

## アペンディクス B: 調査関係者リスト

<b>ステアリング コミッティ</b>	Mr. Bach Quoc Khang	Director General, DAFPPSI of MARD
	Mr. Bui Xuan Trinh	Director of Agricultural Department, Governmental Office
	Mr. Vuong Xuan Chinh	Deputy Director, Dept. of Agriculture and Rural Development, MPI
	Mr. Do Minh Cuong	Director General, Dept. of Vocational Training, MOLISA
	Mr. Nguyen Doanh Chau	Director, Dept. of Local Industry, MOI
	Mr. Nguyen Bao	Vice Director, Dept. of Trade Promotion, MoTrade
	Mr. Hoang Duc Toan	Director, Dept. of Fine Artm MOCI
	Mr. Dang Van Bai	Director, Dept. of National Cultural Heritage, MOCI
	Mr. Nguyen Van Ngu	Vice Director, Dept. of Finance& Planning, MOET
	Mr. Phung Van Nghe	Expert, Dept. of Registration and Statistics, MONE
	Mr. Vu Hy Chuong	Director, Dept. of Scientific Management, MOST
	Mrs. Dao Thi Loc	Expert, Dept. of International Cooperation of MARD
	Mr. Trang Hieu Dung	Director, Dept. of Planning of MARD
	Mr. Xuan The Thu	Officer, Dept. of Policies of MARD
	Mr. Le Van Ban	Vice director, Dept. of Science and Technology of MARD
<b>農業農村開発省 (MARD)</b>	Mr. Bach Quoc Khang	Director of DAFPPSI, MARD
	Mr. Nguyen Duc Xuyen	Deputy Director of DAFPPSI, MARD
	Mr. Ha Son	DAFPPSI, MARD
	Ms. Thanh Thi Ngoc Son	DAFPPSI, MARD
	Mr. Nguyen Manh Dung	DAFPPSI, MARD
	Mr. Nguyen Thanh Dung	DAFPPSI, MARD
	Mr. Ton Gia Hoa	DAFPPSI, MARD
<b>中央省庁</b>	Mr. Nguyen Ngoc Khanh	Former Director of DAFPPRI, MARD
	Mr. Vuong Xuan Chinh	Deputy Director, Dept. of Agriculture and Rural Development, MPI
	Mr. Nguyen Doanh Chau	Director, Dept. of Local Industry, MOI
	Mr. Nguyen Thang Long	Deputy Director General, Dept. of Local Industry, MOI
	Mr. Pham Thanh Tung	Head, Cottage Industry Division, Dept. of Local Industry, MOI
	Mr. Hoang Duc Toan	Director, Dept. of Fine Art, MOCI
	Mr. Dang Van Bai	Director, Dept. of National Cultural Heritage, MOCI
	Mr. Nguyen Bao	Vice-head of Dept. of Trade Promotion, MoTrade
	Mr. Do Minh Cuong	Director General, Dept. of Vocational Training, MOLISA
	Mr. Nguyen Van Ngu	Vice Director, Dept. of Finance& Planning, MOET
	Mr. Phung Van Nghe	Expert, Dept. of Registration and Statistics, MONE
	Mr. Vu Hy Chuong	Director, Dept. of Scientific Management, MOST
	Mr. Chu Tien Quang	Director, Rural Economic Policy Dep., CIEM
<b>省政府</b>	Mr. Nguyen Xuan Chinh	Director, DOI of Ha Tay
	Mr. Tran Van Vien	DOI of Ha Tay
	Mr. Tran Thanh Diep	DARD of Quang Nam
	Mr. Pham Duc Hien	Vice Director, DARD of Lai Chau
	Mr. Ho Chi Viet	Vice Director, DOI of An Giang
	Mr. Vu Thanh Xuan	Vice Director, DOI of Thai Binh
	Mr. Nguyen Kim Bang	DARD of Ninh Binh
<b>JICA 調査団</b>	Dr. Shizuo IWATA	Team Leader
	Mr. Noriyoshi NAGAMATSU	Deputy Team Leader
	Mr. Fumio SHIMIZU	Marketing, PP5
	Ms. Claire Loren BURKERT	Marketing, PP3 & PP7
	Dr. Takeshi MAEDA	Marketing
	Mr. Kazunori HORIGUCHI	Industrial Development Strategy, PP2
	Mr. Kazuteru KURODA	Improvement of Management Skill, PP2
	Mr. Takeshi FUJITA	Improvement of Production Process, PP2
	Ms. Elizabeth MANN	Rural development, PP8
	Mr. Hisaya SHIMIZU	Design promotion, PP4
	Ms. Ayako WATANABE	Gender & Project Evaluation, PP8
	Mr. Nobuaki YOSHIDA	Silk industry, PP2

	Mr. Hidenari ASAI Mr. Kazuo YODA Mr. David LEES Mr. Isamu KOIKE Mr. Naoshi OKAMURA Mr. Edlin ROGUEL Ms. Tomoko ABE	Silk inspection system, PP2 Silk inspection system, PP2 Environmental improvement, PP6 Project Evaluation System engineering, PP1 Web designer, PP1 Project coordinator
<b>JICA 本部</b>	Mr. Syuhei UENO Mr. Kiyotaka MIYAZAKI	Mining and Industrial Development Study Department, JICA HQ Mining and Industrial Development Study Department, JICA HQ
<b>JICA ベトナム事務所</b>	Mr. Kunihiro NAKASONE	Deputy Resident Representative, JICA Vietnam
<b>JICA 専門家 ミッション</b>	Prof. Kiyoshi MIYAZAKI Ms. Ruri NOGUCHI Mr. Takayuki MARUOKA Ms. Yuko YOKOYAMA Ms. Kazu WATANABE Ms. Teruko MITARAI Prof. Hiroyuki AOKI Asso. Prof. Tetsuo KIDOKORO Mr. Haruaki MATSUYAMA Prof. Ichiro MIZUNO Mr. Yasuhiro SHINOMIYA Mr. Koichi YASUI Ms. Aya NAKAYAMA Mr. Junya KITAGAWARA Ms. Emi KIMATA	Dean, Dept. of Engineering, Chiba University Design expert, GK Design Craft expert Craft expert, Jomonsya Marketing expert Marketing expert, Tea Pot Inc. Professor, Dept. of Engineering, Chiba University Associate Professor, Dept. of Urban Engineering, Tokyo University Design expert, Design Center Ishikawa Professor, Division of Architecture, Kanazawa Institute of Technology Traditional Master Craftsperson of Suruga bamboo ware Design expert Craft and jewelry designer, Studio Aya Inc. Market expert, Art Resource Inc. Market expert, Studio Deco Inc.
<b>ローカル コンサルタント</b>	Mr. Trinh Ngoc Vinh Mr. Dinh Van Khoi Mr. Vu Hy Thieu	Local consultant Local consultant Local consultant, VCA
<b>PP1 タスクフォース</b>	Mr. Ha Son Mr. Nguyen Minh Duc Mr. Vu Thanh Trung Ms. Duong Huong Lien	DAFPPSI, MARD (Task Manager) System engineer Surveyor Surveyor
<b>PP2 タスクフォース</b>	Mr. Dinh Van Khoi Mr. Nguyen Xuan Chinh Mr. Vuong Dang Hoa Mr. Nguyen Thanh Quang Mr. Tran Thanh Diep Mr. Le Diem Ms. Chu Thanh Hang Ms. Ha Thanh Hai	Local consultant (Task Manager) Director, DOI of Ha Tay DOI of Ha Tay DARD of Quang Nam DARD of Quang Nam VARISME CREO Trade Inc. (Task Manager) DOI of Thai Binh
<b>PP3 タスクフォース</b>	Dr. Nguyen Van Huy Ms. Vo Mai Phuong Mr. Pham Minh Phuc Mr. Le Anh Hoa Mr. Vu Hong Thuat Mr. Doan Bao Chau Mr. Frank Proshan	Director, Vietnam Museum of Ethnology (Task Manager) Researcher, Vietnam Museum of Ethnology Researcher, Vietnam Museum of Ethnology Researcher, Vietnam Museum of Ethnology Researcher, Vietnam Museum of Ethnology Photographer Anthropologist
<b>PP4 タスクフォース</b>	Mr. Le Huy Van Mr. Dinh Manh Hung Mr. Vu Nham Dr. Ho Hoang Hoa	Vice- lecturer of Hanoi Industrial Art College (Task Manager) Deputy Manager, SMEPC, VCCI Head of Applied Art Department, Hanoi Fine Art College Japanese Studies Institute, NCSSH

	Mr. Nguyen Loi Mr. Le Thanh Binh	Ceramic Producer Designer, Tre Viet Company
<b>PP5 タスクフォース</b>	Mr. Pham Van Hoa Ms. Tran Thi Minh Hong Ms. Pham Hai Ha Mr. Vu Hoa Long Ms. Nguyen Kim Thanh Mr. Tran Ngoc Huy Mr. Do Dinh Lang Mr. Nguyen Minh Phu Mr. Nguyen Van Chuong Mr. Duong Ba Dung	Hanoi Industrial Art College (Task Manager) BPSC Hanoi Industrial Art University Hanoi Industrial Art University Hanoi Industrial Art University Craftsperson of lacquer ware Craftsperson of lacquer ware Craftsperson of stone carving Craftsperson of wood carving Craftsperson of bronze casting
<b>PP6 タスクフォース</b>	Dr. Phung Chi Sy Mr. Kieu Cao Con Mr. Dao Thi Anh Diep Mr. Nguyen Van Binh Mr. Nguyen Manh Hung	ENTEC (Task Manager) DOI of Ha Tay DOSTE of Ha Tay PC of Ha Dong Town PC of Van Phuc Village
<b>PP7 タスクフォース</b>	Ms. Tran Thi Thu Huong Ms. Le Thi Ngoc Tram Ms. Nguyen Hong Anh Ms. Vuong Thai Nga Mr. Pham Van Ai Mr. Nguyen Dang Cuong Mrs. Nguyen Thuy Hong Mrs. Giang Thi May Mrs. Bui Thi Dung Mrs. Le Kim Kha	Project officer, Craft Link Development (Task Manager) Project officer, Craft Link Development Designer, Craft Link Development Administrator, Craft Link Development DARD of Lai Chau DARD of Lai Chau Tua Chua dist. WU, Lai Chau Group leader of Ta La Cao Hmong Embroidery Group, Lai Chau DOI of An Giang WU of Van Giao commune, An Giang
<b>PP8 タスクフォース</b>	Ms. Nguyen Thi Thanh Tam Ms. Nguyen Thi Thu Que Mr. Bui Dinh Toai Mr. Do Quoc Hung Mr. Ha Chieu Mr. Pham Minh Cuong	BBI (Task Manager) Adviser PRA Trainer Working group, PC Chairman of Duyen Thai commune, Ha Tay Local coordinator of Ha Thai Lacquer Association, Ha Tay Working group, PC Chairman of An Hoa commune, Ninh Binh
<b>ベトナム工芸 コンペティション タスクフォース</b>	Mr. Hoang Duc Toan Mr. Le Huy Van Mr. Vu Hy Thieu Mr. Nguyen Bao Ms. Tran Thi Mai Huong Ms. Nguyen Thi Quy Linh	Director of Dept. of Fine Art, MOCI Vice-lecturer of Hanoi Industrial Art College Vice-director, Cooperative Economic Institute, VCA Market expert, Vice-director of Dept. of Trade Promotion, MOT Market expert, BAROTEX Rattan-Bamboo Export Company Secretary of Craft Competition
<b>現地支援</b>	Mr. Le Ba Ngoc Ms. Do Minh Thu Ms. Luong Huong Giang Dr. Phan Le Binh Mr. Nguyen Quoc Khanh Ms. Nguyen Duc Hanh Ms. Tran Thi Thanh Tam	HRPC Secretary of MARD-JICA Project Office Secretary, ALMEC Corporation Consultant, ALMEC Corporation Translator, ALMEC Corporation Translator, ALMEC Corporation Office assistant, ALMEC Corporation

アペンドックス C: 成果品リスト

カテゴリ	成果品名	種類
本調査	Final report of the Study on Artisan Craft Development Plan for Rural Industrialization in Vietnam	報告書
	Model Provincial Master Plan (Ha Tay, Quang Nam, An Giang, Lai Chau)	報告書
	Summary report of the Study	報告書
	Video of the Study on Artisan Craft Development Plan for Rural Industrialization in Vietnam	ビデオ
	CD-ROM of the Final Report	CD-ROM
PP1	1) MARD Craft Website	ウェブサイト
	2) Website training manual	マニュアル
PP2	1) Consultant Manual	マニュアル
	2) Handbook for skill improvement Bamboo & Rattan	教材
	3) Handbook for skill improvement Woodcarving	教材
	4) Cluster development final report	報告書
	5) Management improvement report	報告書
	6) Manual book on mulberry yellow boiling and reeling processes	マニュアル
	7) Woodcrafts, bamboo& rattan crafts made by trainees	工芸品
	8) Inspected silk yarn and fabrics	工芸品
PP3	1) Methodology Report of the Photovoice project on preservation of traditional value of crafts	マニュアル
	2) Report on bronze castings in Dai Bai village	報告書
	3) Report on textile crafts in Na Sang 2 village	報告書
	4) Photovoice Panels	写真パネル
PP4	1) Design Guide Book	教材
	2) Report on design system	報告書
PP5	1) Coordinator Manual for Competitive Craft Product Development	マニュアル
	2) Final report on development of competitive products for the international market	報告書
	3) Craft 2003 -Developing competitive craft products-	カタログ
	4) Competitive Craft Items	工芸品
PP6	1) Manuals on clean water supply and environmental sanitation in Van Phuc village	マニュアル
	2) Report on environmental improvement of Van Phuc village in Ha Tay province	報告書
PP7	1) Handicraft Training with ethnic minority groups in Vietnam Part 1	マニュアル
	2) Handicraft Training with ethnic minority groups in Vietnam Part 2	マニュアル
	3) Final report on strengthening the management capacity of ethnic minority craft villages	報告書
	4) Woven fabrics and embroidered craft products made by ethnic minorities	工芸品
PP8	1) Guidebook on participatory methodology for situation assessment and formulation of development strategy of craft village	マニュアル
	2) Strategy for sustainable development of Ha Thai craft village until 2010	報告書
	3) Strategy for sustainable development until 2010 of Village # 8 in An Hoa commune, Ninh Binh province	報告書
PP9	Vietnam Artisan Craft Competition Catalog	カタログ
その他	Craft Village Calendar 2004	カレンダー